沖縄県宮古島市久松方言

沖縄県宮古島市久松方言位置図

【沖縄県宮古方言区画】中本（2014）を参照。

【久松方言について】久松方言は、宮古本島の中西部に位置する久松地区で話されている宮古語の方言である。久松地区は行政的に沖縄県宮古島市平良地域に属し、久貝（フガバラ）と松原（マツバラ）の二つの集落からなる。久貝方言と松原方言は、語彙面においては、僅かな差異（e.g. 桑の木：<久貝> バナキッギー；<松原> バンキッギー、虫払い（害虫払いの行事）：<久貝> ムスルム゜；<松原> ムルム゜、ハマユウ（植物）：<久貝> ビーング；<松原> サディフ）しか見られないが、音声面や文法面などにおいては、差異がほぼ見られない。また、現地の人は「久松」のことを「野崎」（ヌザキッ）と呼び、「久松方言」のことを「野崎口」（ヌザキッフツ）と言う。

【表記について】本稿では、音素と表記をできるだけ一対一で対応させる。そのため、以下のように /pžža/ [pʂsa] と /kžža/ [kʂsa] の /ža/ [sa] の音声と /sa/ [sa] の音声、また /pžži/ [pçɕi] と /kžži/ [kçɕi] の /ži/ [ɕi] の音声と /si/ [ɕi] の音声が同じであっても、前者を「ヅァ」「ヅィ」のように、後者を「サ」「シ」のように異なる表記を採用する。また、/u/ と /vu/ の音声はいずれも [u] だが、「追う」という動詞の活用パターンを考慮する上で、/vaa/ /vui/ /uu/ と分析するより /vaa/ /vui/ /vuu/ と分析したほうが語幹を /vu-/ と /u-/ の 2 種類を設定しなくて済む。そのため、この 2 つの音素を区別するために、/vu/ を「ウゥ」と表記するが、音声上では「ウ」と同じである。

/pž/ =ピッ（[pʂ]）、/pžž/ =ピッー（[pʂ:]）、/pžža/ =ピッヅァ（[pʂsa]）、/pžži/ =ピッヅィ（[pçɕi]）、/pžžu/ =ピッヅゥ（[pʂsu]）、/pžžju/ =ピッヅュ（[pçɕu]）

/bž/ =ビッ（[bʐ]）、/bžž/ =ビッー（[bʐ:]）、/bžža/ =ビッヅァ（[bʐza]）、/bžži/ =ビッヅィ（[bʐʑi]）、/bžžu/ =ビッヅゥ（[bʐzu]）、/bžžju/ =ビッヅュ（[bʐʑu]）

/kž/ =キッ（[kʂ]）、/kžž/ =キッー（[kʂ:]）、/kžža/ =キッヅァ（[kʂsa]）、/kžži/ =キッヅィ（[kçɕi]）、/kžžu/ =キッヅゥ（[kʂsu]）、/kžžju/ =キッヅュ（[kçɕu]）

/gž/ =ギッ（[gʐ]）、/gžž/ =ギッー（[gʐ:]）、/gžža/ =ギッヅァ（[gʐza]）、/gžži/ =ギッヅィ（[gʐʑi]）、/gžžu/ =ギッヅゥ（[gʐzu]）、/gžžju/ =ギッヅュ（[gʐʑu]）

/va/ =ワ（[ʋa]）、/vi/ =ウィ（[ʋi]）、/vu/ =ウゥ（[u]）

/vva/ =ヴヴァ（[vva]）、/vvi/ =ヴヴィ（[vvi]）、/vvu/ =ヴヴゥ（[vvu]）

/si/ =ス（[sɨ]）、/su/ =スゥ（[su]）

/ci/ =ツ（[tsɨ]）、/cu/ =ツゥ（[tsu]）

/zi/ =ズ（[dzɨ]）、/zu/ =ズゥ（[dzu]）

/fi/ =フ（[fɯ]）

成節子音：/v/ =ヴ（[ɣ]）、/vv/ =ヴー（[ɣ:]）、/n/ =ン（[ɲ~ŋ̇]）、/nn/ =ンー（[ɲ:~ŋ̇:]）、/m/ =ム゜（[ɱ:]）、/mm/ =ム゜ー（[ɱ:]）、/ž/ =ヅ（[ʐ]）、/žž/ =ヅー（[ʐ:]）

なお、成節子音は単独で現れる場合、あるいは子音の直後に現れる場合（ž のみ）は、母音のスロットに入ると考え、母音の前後に現れる場合は、子音のスロットに入ると考える。

久松方言の音韻論および形容詞に関する詳しい記述は陶（2020）、動詞の分類および不規則動詞の認定に関する詳しい記述は陶（2023）を参照されたい。

【調査概要】本稿の記述は主に、2020 年から 2022 年の電話調査で 1958（昭和 33）年生まれの女性のコンサルタントから得られたデータ、及び 2022 年 12 月・2023 年 7 月のフィールドワークで 1949（昭和 24）年生まれの男性のコンサルタントから得られたデータによる。一部、2018 年から 2019 年に数名のコンサルタントから収集したデータも参照している。

沖縄県宮古島市久松方言の活用表

《動詞: 三段型》

		三段型（1-i）　書く	三段型（1-ii）　乗る・登る	三段型（1-iii） 形容詞の動詞化接辞
終止類	断定非過去	カキッ	ヌーヅ	カー／カヅ
	断定過去	カキッター	ヌー（ヅ）ター	カ（ヅ）ター
	推量非過去	カキッム゜	ヌーヅム゜	カ（ヅ）ム゜
	推量過去	カキッタム゜	ヌー（ヅ）タム゜	カ（ヅ）タム゜
	命令	カキ	ヌーリ	（該当形　欠）
	禁止	カキッナ	ヌーヅナ	（該当形　欠）
	意志	カカー カカディ	ヌーラー ヌーラディ	（該当形　欠）
	予定・義務	カキッ　ガマタ	ヌーヅ　ガマタ	（該当形　欠）
接続類	連体非過去	カキッ	ヌーヅ	カー／カヅ
	連体過去	カキッター	ヌー（ヅ）ター	カ（ヅ）ター
	中止 1	カキ（ー）	ヌーリ（ー）	カリ（ー）
	中止 2	カキッティ	ヌーリッティ	カリッティ／カーッティ
	仮定 1	カキッチカー	ヌーヅチカー	カ（ー）チカー／カ（ヅ）チカー
	仮定 2	カキバ カカバ カキッバ	ヌーリバ ヌーラバ ヌーヅバ	カリバ カラバ カーバ／カヅバ
	同時	カキッシャーナ	ヌーヅシャーナ	（該当形　欠）
	理由 1	カキバ カキッバ	ヌーリバ ヌーヅバ	カリバ カーバ／カヅバ
	理由 2	カカッジャバ	ヌーラッジャバ	（該当形　欠）
	逆接	カキッスゥガ	ヌーヅスゥガ	カースゥガ／カヅスゥガ
	目的	カキッガ	ヌーヅガ	（該当形　欠）
	譲歩	カキバンマイ カカバンマイ	ヌーリバンマイ ヌーラバンマイ	カリバンマイ カラバンマイ
派生類	否定	カカン	ヌーラン	（該当形　欠）
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	カカス カカシミヅ	ヌーラス ヌーラシミヅ	カラス
	受身	カカレーヅ	ヌーラレーヅ	（該当形　欠）
	可能	カカレーヅ	ヌーラレーヅ	（該当形　欠）
	尊敬	カカマヅ	ヌーラマヅ	（該当形　欠）
	継続	カキ　ウー	ヌーリ　ウー	カリ　ウー
	希望	カキッブス カカバー	ヌーヅブス ヌーラバー	カラバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《動詞: 三段型》

		三段型 (2)　出す	三段型 (3-i)　買う	三段型 (3-ii)　思う	三段型 (4-i)　読む
終止類	断定非過去	イダス	コー	ウムー	ユム゜
	断定過去	イダスター	コーター	ウムーター	ユム゜ター
	推量非過去	イダスム゜	コーム゜	ウムーム゜	ユム゜
	推量過去	イダスタム゜	コータム゜	ウムータム゜	ユム゜タム゜
	命令	イダシ	カイ	ウムイ	ユミ
	禁止	イダスナ	コーナ	ウムーナ	ユム゜ナ
	意志	イダサー イダサディ	カー カーディ	ウマー ウマーディ	ユマー ユマディ
	予定・義務	イダス　ガマタ	コー　ガマタ	ウムー　ガマタ	ユム゜　ガマタ
接続類	連体非過去	イダス	コー	ウムー	ユム゜
	連体過去	イダスター	コーター	ウムーター	ユム゜ター
	中止 1	イダシ（ー）	カイ	ウムイ	ユミ（ー）
	中止 2	イダシッティ	カイッティ	ウムイッティ	ユミッティ
	仮定 1	イダスチカー	コーチカー	ウムーチカー	ユム゜チカー
	仮定 2	イダシバ イダサバ イダスバ	カイバ カーバ コーバ	ウムイバ ウマーバ ウムーバ	ユミバ ユマバ ユム゜バ
	同時	イダスシャーナ	コーシャーナ	ウムーシャーナ	ユム゜シャーナ
	理由 1	イダシバ イダスバ	カイバ コーバ	ウムイバ ウムーバ	ユミバ ユム゜バ
	理由 2	イダサッジャバ	カーッジャバ	ウマーッジャバ	ユマッジャバ
	逆接	イダススゥガ	コースゥガ	ウムースゥガ	ユム゜スゥガ
	目的	イダスガ	コーガ	ウムーガ	ユム゜ガ
	譲歩	イダシバンマイ イダサバンマイ	カイバンマイ カーバンマイ	ウムイバンマイ ウマーバンマイ	ユミバンマイ ユマバンマイ
派生類	否定	イダサン	カーン	ウマーン	ユマン
	丁寧	（該当形 欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	イダサス イダサシミヅ	カース カーシミヅ	ウマース ウマーシミヅ	ユマス ユマシミヅ
	受身	イダサレーヅ	カーレーヅ	ウマーレーヅ	ユマレーヅ
	可能	イダサレーヅ	カーレーヅ	ウマーレーヅ	ユマレーヅ
	尊敬	イダサマヅ	カーマヅ	ウマーマヅ	ユママヅ
	継続	イダシ　ウー	カイ　ウー	ウムイ　ウー	ユミ　ウー
	希望	イダスブス イダサバー	コーブス カーバー	ウムーブス ウマーバー	ユム゜ブス ユマバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《動詞: 三段型･一段型》

		三段型 (4-ii)　眠る	三段型 (4-iii)　切る	一段型 (1)　探す
終止類	断定非過去	ニヴ	キッー	トゥミヅ
	断定過去	ニヴター	キッター	トゥミ（ヅ）ター
	推量非過去	ニヴム゜	キッム゜	トゥミ（ヅ）ム゜
	推量過去	ニヴタム゜	キッタム゜	トゥミ（ヅ）タム゜
	命令	ニヴヴィ	キッヅィ	トゥミル
	禁止	ニヴナ	キッ（ー）ナ	トゥミ（ヅ）ナ
	意志	ニヴヴァー ニヴヴァディ	キッヅァー キッヅァディ	トゥミヨー トゥミディ
	予定・義務	ニヴ　ガマタ	キッー　ガマタ／キッガマタ	トゥミ（ヅ）　ガマタ
接続類	連体非過去	ニヴ	キッー	トゥミヅ
	連体過去	ニヴター	キッター	トゥミ（ヅ）ター
	中止 1	ニヴヴィ	キッヅィ	トゥミ
	中止 2	ニヴヴィッティ	キッヅィッティ	トゥミッティ
	仮定 1	ニヴチカー	キッ（ー）チカー	トゥミ（ヅ）チカー
	仮定 2	ニヴヴィバ ニヴヴァバ ニヴバ	キッヅィバ キッヅァバ キッーバ	トゥミ（ヅ）バ トゥミルバ
	同時	ニヴシャーナ	キッ（ー）シャーナ	トゥミ（ヅ）シャーナ
	理由 1	ニヴヴィバ ニヴバ	キッヅィバ キッーバ	トゥミ（ヅ）バ トゥミルバ
	理由 2	ニヴヴァッジャバ	キッヅァッジャバ	トゥミッジャバ
	逆接	ニヴスゥガ	キッースゥガ	トゥミ（ヅ）スゥガ
	目的	ニヴガ	キッーガ	トゥミ（ヅ）ガ
	譲歩	ニヴヴィバンマイ ニヴヴァバンマイ	キッヅィバンマイ キッヅァバンマイ	トゥミルバンマイ
派生類	否定	ニヴヴァン	キッヅァン	トゥミン
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	ニヴヴァス ニヴヴァシミヅ	キッヅァス キッヅァシミヅ	トゥミシミヅ
	受身	（該当形　欠）	キッヅァレーヅ	トゥミラレーヅ
	可能	ニヴヴァレーヅ	キッヅァレーヅ	トゥミラレーヅ
	尊敬	ニヴヴァマヅ	キッヅァマヅ	トゥミサマヅ
	継続	ニヴヴィ　ウー	キッヅィ　ウー	トゥミ　ウー
	希望	ニヴブス ニヴヴァバー	キッーブス キッヅァバー	トゥミ（ヅ）ブス トゥミ（ル）バー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《動詞: 一段型》

		一段型 (2)　「来る」の敬語※	一段型 (2)　「する」の敬語、尊敬接辞
終止類	断定非過去	ンメーヅ	（サ）マヅ
	断定過去	ンメー（ヅ）ター	（サ）マ（ヅ）ター
	推量非過去	ンメー（ヅ）ムˀ	（サ）マ（ヅ）ムˀ
	推量過去	ンメー（ヅ）タムˀ	（サ）マ（ヅ）タムˀ
	命令	ンメ（ー）チ	（サ）マチ
	禁止	ンメー（ヅ）ナ	（サ）マ（ヅ）ナ
	意志	ンメーディ	（サ）マディ
	予定・義務	ンメー（ヅ）　ガマタ	（サ）マ（ヅ）　ガマタ
接続類	連体非過去	ンメーヅ	（サ）マヅ
	連体過去	ンメー（ヅ）ター	（サ）マ（ヅ）ター
	中止 1	ンメー／ンメイ	（サ）マイ
	中止 2	ンメーッティ／ンメイッティ	（サ）マイッティ
	仮定 1	ンメー（ヅ）チカー	（サ）マ（ヅ）チカー
	仮定 2	ンメー（ヅ）バ ンメーバ／ンメイバ	（サ）マ（ヅ）バ （サ）マイバ
	同時	ンメー（ヅ）シャーナ	（サ）マ（ヅ）シャーナ
	理由 1	ンメー（ヅ）バ ンメーバ／ンメイバ	（サ）マ（ヅ）バ （サ）マイバ
	理由 2	（該当形 欠）	（該当形　欠）
	逆接	ンメー（ヅ）スゥガ	（サ）マ（ヅ）スゥガ
	目的	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	譲歩	ンメイバンマイ ンメーバンマイ	（サ）マイバンマイ （サ）マバンマイ
派生類	否定	ンメーン	（サ）マン
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	ンメーシミヅ	（サ）マシミヅ
	受身	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	可能	ンメーラレーヅ	（サ）マラレーヅ
	尊敬	ンメーサマヅ	（サ）マラレーヅ
	継続	ンメー　ウー／ンメイ　ウー	（該当形　欠）
	希望	ンメー（ヅ）ブス ンメーバー	（サ）マ（ヅ）ブス （サ）マバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

※「来る」の敬語としてのみ使う話者が多いが、一部の話者は「来る」と「いる」両方の敬語として使う。また、宮古島の他の地域では、「行く」の敬語として使う話者もいるが、現時点では久松において「行く」の敬語として使う話者は確認されていない。

《動詞: 不規則動詞》

		不規則 (r/ii)　いる	不規則 (r/SP)　ある
終止類	断定非過去	ウー／ウヅ	アー／アヅ
	断定過去	ウ（ヅ）ター	ア（ヅ）ター
	推量非過去	ウ（ヅ）ム゜	ア（ヅ）ム゜
	推量過去	ウ（ヅ）タム゜	ア（ヅ）タム゜
	命令	ウリ	（該当形　欠）
	禁止	ウーナ／ウヅナ	（該当形　欠）
	意志	ウラー ウラディ	（該当形　欠）
	予定・義務	ウ（ヅ）　ガマタ	ア（ヅ）　ガマタ
接続類	連体非過去	ウー／ウヅ	アー／アヅ
	連体過去	ウ（ヅ）ター	ア（ヅ）ター
	中止 1	ウリ（ー）	アリ（ー）
	中止 2	ウリッティ／ウーッティ	アリッティ／アーッティ
	仮定 1	ウ（ー）チカー／ウ（ヅ）チカー	ア（ー）チカー／ア（ヅ）チカー
	仮定 2	ウリバ ウラバ ウーバ／ウヅバ	アリバ アラバ アーバ／アヅバ
	同時	ウーシャーナ／ウヅシャーナ	（該当形　欠）
	理由 1	ウリバ ウーバ／ウヅバ	アリバ アーバ／アヅバ
	理由 2	ウラッジャバ	（該当形　欠）
	逆接	ウースゥガ／ウヅスゥガ	アースゥガ／アヅスゥガ
	目的	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	譲歩	ウリバンマイ ウラバンマイ	アリバンマイ アラバンマイ
派生類	否定	ウラン 《ミーン》	《ニャーン》
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	ウラス ウラシミヅ	（該当形　欠）
	受身	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	可能	ウラレーヅ	（該当形　欠）
	尊敬	ウラマヅ	（該当形　欠）
	継続	ウリ　ウー	アリ　ウー
	希望	ウーブス／ウヅブス ウラバー	アラバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《動詞: 不規則動詞》

		不規則 (ff/r)　降る
終止類	断定非過去	ッフ／フヅ／フー
	断定過去	ッフター／フ（ヅ）ター／フッター
	推量非過去	ッフム゜／フヅム゜／フム゜
	推量過去	ッフタム゜／フ（ヅ）タム゜／フッタム゜
	命令	ッフィ／フリ
	禁止	ッフナ／フヅナ／フーナ
	意志	ッファディ／フラディ
	予定・義務	ッフ　ガマタ／フヅ　ガマタ／フー　ガマタ
接続類	連体非過去	ッフ／フヅ／フー
	連体過去	ッフター／フ（ヅ）ター／フッター
	中止 1	ッフィ（ー）／フリ（ー）
	中止 2	ッフィッティ／フリッティ
	仮定 1	ッフチカー／フヅチカー／フ（ー）チカー
	仮定 2	ッフィ／フリバ ッファバ ッフバ／フヅバ／フーバ
	同時	（該当形　欠）
	理由 1	ッフィ／フリバ ッフバ／フヅバ／フーバ
	理由 2	（該当形　欠）
	逆接	ッフスゥガ／フヅスゥガ／フースゥガ
	目的	（該当形　欠）
	譲歩	ッフィバンマイ／フリバンマイ ッファバンマイ／フラバンマイ
派生類	否定	ッファン／フラン
	丁寧	（該当形　欠）
	使役	ッファス／フラス ッファシミヅ／フラシミヅ
	受身	ッファレーヅ／フラレーヅ
	可能	（該当形　欠）
	尊敬	（該当形　欠）
	継続	ッフィ　ウー
	希望	ッファバー／フラバー
	のだ	（該当形　欠）

《動詞: 不規則動詞》

		不規則 (r/ss)　知る・知っている	不規則 (n/i)　死ぬ
終止類	断定非過去	ッシュー（ヅ）	スン
	断定過去	ッシュー（ヅ）ター	スンター
	推量非過去	ッシュー（ヅ）ム゜	スン
	推量過去	ッシュー（ヅ）タム゜	スンタム゜
	命令	ッシューリ	スニ スニル
	禁止	（該当形 欠）	スンナ
	意志	ッサー／ッシューラー ッサディ／ッシューラディ	スナー スナディ
	予定・義務	ッシュー（ヅ）　ガマタ	スン　ガマタ
接続類	連体非過去	ッシュー（ヅ）	スン
	連体過去	ッシュー（ヅ）ター	スンター
	中止 1	ッシ（ー）／ッシューリ（ー）	スニ（ー）
	中止 2	ッシューリッティ／ッシューッティ	スニッティ
	仮定 1	ッシュー（ヅ）チカー	スンチカー
	仮定 2	ッシューリバ ッシューラバ ッシュー（ヅ）バ	スニ（ル）バ スナバ スンバ
	同時	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	理由 1	ッシューリバ ッシュー（ヅ）バ	スニ（ル）バ スンバ
	理由 2	ッサ（ー）ッジャバ／ッシューラッジャバ	スナッジャバ
	逆接	ッシュー（ヅ）スゥガ	スンスゥガ
	目的	（該当形　欠）	スンガ
	譲歩	ッシーバンマイ／ッシューリバンマイ ッサバンマイ／ッシューラバンマイ	スニバンマイ スナバンマイ スニルバンマイ
派生類	否定	ッサン／ッシューラン	スナン
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	ッサス ッサシミヅ	スナス スナシミヅ
	受身	ッサーレーヅ／ッシューラレーヅ	（該当形　欠）
	可能	ッサーレーヅ／ッシューラレーヅ	スナレーヅ
	尊敬	ッシューラマヅ	スナマヅ
	継続	ッシ（ー）　ウー	スニ　ウー
	希望	ッシュー（ヅ）ブス ッシューラバー	スンブス スナバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《動詞: 不規則動詞》

		不規則 (ž/SP)　来る	不規則 (ii/ss/SP)　する
終止類	断定非過去	キッー	シーヅ／ッス／スー
	断定過去	キッター	シー（ヅ）ター／ッスター／スーター
	推量非過去	キッム゜	シー（ヅ）ム゜／ッスム゜
	推量過去	キッタム゜	シー（ヅ）タム゜／ッスタム゜／スータム゜
	命令	クー	シール／ッシ
	禁止	キッ（ー）ナ	シー（ヅ）ナ／ッスナ／スーナ
	意志	クーディ	シーヨー シーディ
	予定・義務	キッー　ガマタ／キッガマタ	シー（ヅ）　ガマタ／ッス　ガマタ／スー　ガマタ
接続類	連体非過去	キッー	シーヅ／ッス／スー
	連体過去	キッター	シー（ヅ）ター／ッスター／スーター
	中止 1	キッヅィ（ー）	シー／ッシ（ー）
	中止 2	キッヅィッティ	シーッティ シティ
	仮定 1	キッ（ー）チカー	シー（ヅ）チカー／ッスチカー／スーチカー
	仮定 2	キッヅィバ キッヅァバ キッーバ	シー（ヅ）バ シールバ／ッシバ
	同時	（該当形　欠）	シー（ヅ）シャーナ／ッ（ス）シャーナ
	理由 1	キッヅィバ キッーバ	シー（ヅ）バ シールバ／ッシバ
	理由 2	クーッジャバ	シーッジャバ
	逆接	キッースゥガ	シー（ヅ）スゥガ／ッ（ス）スゥガ／スースゥガ
	目的	（該当形　欠）	シー（ヅ）ガ／ッスガ／スーガ
	譲歩	キッヅィバンマイ クーバンマイ	シールバンマイ
派生類	否定	クーン	シーン
	丁寧	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	使役	クーシミヅ	シーシミヅ シミヅ
	受身	（該当形　欠）	シーラレーヅ
	可能	クーラレーヅ	シーラレーヅ
	尊敬	クーサマヅ 《ンメーヅ》	《サマヅ》 シーサマヅ
	継続	キッヅィ　ウー	シー　ウー／ッシ　ウー
	希望	キッーブス クーバー	シー（ヅ）ブス／スーブス シー（ル）バー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《形容詞: 非自立型》

		非自立型　美味しい	
		単独形／叙述形	動詞形
終止類	断定非過去	ンマムヌ	ンマカー ンマカヅ
	断定過去	ンマムヌ（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター	ンマカ（ヅ）ター
	推量非過去	ンマムヌ（ドゥ）　ヤ（ヅ）ム゜	ンマカ（ヅ）ム゜
	推量過去	ンマムヌ（ドゥ）　ヤ（ヅ）タム゜	ンマカ（ヅ）タム゜
	感嘆	ンマ	（該当形　欠）
接続類	連体非過去	ンマ	ンマカー ンマカヅ
	連体過去	（該当形　欠）	ンマカ（ヅ）ター
	中止 1	ンマムヌバシ（ー）	ンマカリ（ー）
	中止 2	ンマムヌバシッティ	ンマカリッティ
	仮定 1	ンマムヌ　ヤーチカー ンマムヌ　ヤヅチカー	ンマカーチカー ンマカヅチカー
	仮定 2	ンマムヌ　ヤリバ ンマムヌ　ヤラバ ンマムヌ　ヤ（ー）バ ンマムヌ　ヤヅバ	ンマカリバ ンマカラバ ンマカーバ ンマカヅバ
	理由	ンマムヌ　ヤ（ー）バ ンマムヌ　ヤヅバ	ンマカリバ ンマカーバ ンマカヅバ
	逆接	ンマムヌ　ヤ（ー）スゥガ ンマムヌ　ヤヅスゥガ ンマムヌスゥガ	ンマカースゥガ ンマカヅスゥガ
	譲歩	ンマムヌ　ヤリバンマイ ンマムヌ　ヤラバンマイ	ンマカリバンマイ ンマカラバンマイ
派生類	否定	ンマッファ　ニャーン	（該当形　欠）
	なる	ンマフ　ナヅ	ンマカリ　ナヅ
	副詞	ンマフ	ンマカリ
	丁寧	ンマムヌ（ドゥ）　ヤラマヅ	（該当形　欠）
	使役	（該当形　欠）	ンマカラス
	継続	（該当形　欠）	ンマカリ（ドゥ）　ウー
	希望	（該当形　欠）	ンマカラバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《形容詞: 自立型》

		自立型　優しい	
		単独形／叙述形	動詞形
終止類	断定非過去	キッムカギ（ムヌ）	キッムカギカー キッムカギカヅ
	断定過去	キッムカギ（ムヌ）（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター	キッムカギカ（ヅ）ター
	推量非過去	キッムカギ（ムヌ）（ドゥ）　ヤ（ヅ）ム゜	キッムカギカ（ヅ）ム゜
	推量過去	キッムカギ（ムヌ）（ドゥ）　ヤ（ヅ）タム゜	キッムカギカ（ヅ）タム゜
	感嘆	キッムカギ	（該当形　欠）
接続類	連体非過去	キッムカギ	キッムカギカー キッムカギカヅ
	連体過去	（該当形　欠）	キッムカギカ（ヅ）ター
	中止 1	キッムカギムヌバシ（ー）	キッムカギカリ（ー）
	中止 2	キッムカギムヌバシッティ キッムカギ　ヤリッティ	キッムカギカリッティ
	仮定 1	キッムカギ（ムヌ）　ヤーチカー キッムカギ（ムヌ）　ヤヅチカー	キッムカギカーチカー キッムカギカヅチカー
	仮定 2	キッムカギ（ムヌ）　ヤリバ キッムカギ（ムヌ）　ヤラバ キッムカギ（ムヌ）　ヤ（ー）バ キッムカギ（ムヌ）　ヤヅバ	キッムカギカリバ キッムカギカラバ キッムカギカーバ キッムカギカヅバ
	理由	キッムカギ（ムヌ）　ヤ（ー）バ キッムカギ（ムヌ）　ヤヅバ	キッムカギカリバ キッムカギカーバ キッムカギカヅバ
	逆接	キッムカギ（ムヌ）　ヤ（ー）スゥガ キッムカギ（ムヌ）　ヤヅスゥガ キッムカギ（ムヌ）スゥガ	キッムカギカースゥガ キッムカギカヅスゥガ
	譲歩	キッムカギ（ムヌ）　ヤリバンマイ キッムカギ（ムヌ）　ヤラバンマイ	キッムカギカリバンマイ キッムカギカラバンマイ
派生類	否定	キッムカギッファ　ニャーン	（該当形　欠）
	なる	キッムカギフ　ナヅ	キッムカギカリ　ナヅ
	副詞	キッムカギフ	キッムカギカリ
	丁寧	キッムカギ（ムヌ）　ヤラマヅ	（該当形　欠）
	使役	（該当形　欠）	キッムカギカラス
	継続	（該当形　欠）	キッムカギカリ（ドゥ）　ウー
	希望	（該当形　欠）	キッムカギカラバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

《形容名詞述語･名詞述語》

		形容名詞　とても良い	名詞　先生（だ）
終止類	断定非過去	ジョートゥ	シンシー
	断定過去	ジョートゥ（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター	シンシー（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター
	推量非過去	ジョートゥ（ドゥ）　ヤ（ヅ）ム゜	シンシー（ドゥ）　ヤ（ヅ）ム゜
	推量過去	ジョートゥ（ドゥ）　ヤ（ヅ）タム゜	シンシー（ドゥ）　ヤ（ヅ）タム゜
	感嘆	ジョートゥ	（該当形　欠）
接続類	連体非過去	《ジョートゥヌ》	《シンシーヌ》
	連体過去	ジョートゥ（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター	シンシー（ドゥ）　ヤ（ヅ）ター
	中止 1	ジョートゥバシ（ー）	シンシーバシ（ー）
	中止 2	ジョートゥバシッティ	シンシーバシッティ
	仮定 1	ジョートゥ　ヤーチカー ジョートゥ　ヤ（ヅ）チカー	シンシー　ヤーチカー シンシー　ヤ（ヅ）チカー
	仮定 2	ジョートゥ　ヤリバ ジョートゥ　ヤラバ ジョートゥ　ヤ（ー）バ ジョートゥ　ヤヅバ	シンシー　ヤリバ シンシー　ヤラバ シンシー　ヤ（ー）バ シンシー　ヤヅバ
	理由	ジョートゥ　ヤ（ー）バ ジョートゥ　ヤヅバ	シンシー　ヤ（ー）バ シンシー　ヤヅバ
	逆接	ジョートゥ　ヤ（ー）スゥガ ジョートゥ　ヤヅスゥガ ジョートゥスゥガ	シンシー　ヤ（ー）スゥガ シンシー　ヤヅスゥガ シンシースゥガ
	譲歩	ジョートゥ　ヤリバンマイ ジョートゥ　ヤラバンマイ	シンシー　ヤリバンマイ シンシー　ヤラバンマイ
派生類	否定	ジョートゥヤ　アラン	シンシーヤ　アラン
	なる	ジョートゥン　ナヅ ジョートゥンカイ　ナヅ ジョートゥバシ　ナヅ	シンシーン　ナヅ シンシーンカイ　ナヅ シンシーバシ　ナヅ
	副詞	ジョートゥン ジョートゥンカイ ジョートゥバシ	（該当形　欠）
	丁寧	ジョートゥ（ドゥ）　ヤラマヅ	シンシー（ドゥ）　ヤラマヅ
	使役	（該当形　欠）	（該当形　欠）
	継続	ジョートゥバシ　ウー	シンシーバシ　ウー
	希望	ジョートゥ　ヤラバー	シンシー　ヤラバー
	のだ	（該当形　欠）	（該当形　欠）

※ 焦点助詞「ドゥ」のあとのコピュラの「ヤ」が「ア」になることもある。また、焦点助詞の有無にかかわらず、丁寧形の「ヤラマヅ」が「アラマヅ」になることが可能である。

動詞（コピュラを含む）の基幹形

活用型		語例	語幹末音	語幹	基幹 1		基幹 2		基幹 3	
三段型	1-i	書く	k	kak-	カキッ-	kak·ž-	カキ-	kak·i-	カカ-	kak·a-
（III）		漕ぐ	g	kug-	クギッ-	kug·ž-	クギ-	kug·i-	クガ-	kug·a-
		遊ぶ	p	asip-	アスピッ-	asip·ž-	アスピ-	asip·i-	アスパ-	asip·a-
				app-	アッピッ-	app·ž-	アッピ-	app·i-	アッパ-	app·a-
		飛ぶ	b	tub-	トゥビゥ-	tub·ž-	トゥビ-	tub·i-	トゥバ-	tub·a-
	1-ii	乗る・登る	r	nuur-	ヌーヅ-	nuur·ž-	ヌーリ-	nuur·i-	ヌーラ-	nuur·a-
						(→nuuž-)				
		取る	r	tur-	トゥヅ-	tur·ž-	トゥリ-	tur·i-	トゥラ-	tur·a-
						(→tuž-)				
							トゥイ-	*tu·i-		
	1-iii	形容詞の動詞化接辞	r	kar-	カヅ-	kar·ž-	カリ-	kar·i-	カラ-	kar·a-
						(→kaž-)				
					カ-	*kar·φ-				
						(→ka-)				
	2	出す	s	idas-	イダス-	idas·i-	イダシ-	idas·i-	イダサ-	idas·a-
		言う・歌う	z	anz-	アン（ズ）-	*anz·i-	アンジ-	anz·i-	アンザ-	anz·a-
						(→an(zi)-)				
		立つ	t	tat-	タツ-	tat·i-	タチ-	tat·i-	タタ-	tat·a-
						(→taci-)		(→taci-)		
		作る	f	cif-	ツフ-	cif·i-	ツフィ-	cif·i-	ツファ-	cif·a-
	3-i	買う	a	ka-	コー-	ka·u-	カイ-	ka·i-	カー-	ka·a-
						(→koo-)				
	3-ii	思う	u	umu-	ウムー-	umu·u-	ウムイ-	umu·i-	ウマー-	umu-a
										(→umaa-)

		酔う	uu	bjuu-	ビュー- ビューヅ-	bjuu·u- (→bjuu-) *bjuu·ž-	ビューイ	bjuu·i-	ビャー	bjuu·a (→bjaa-)
	4-i	読む	m	jum-	ユム゜-	jum·φ-	ユミ-	jum·i-	ユマ-	jum·a-
	4-ii	眠る	vv	nivv-	ニヴ-	nivv·φ- (→niv-)	ニヴヴィ-	nivv·i-	ニヴヴァ-	nivv·a-
	4-iii	切る	ž	kž-	キッ-	kž·φ-	キッヅィ-	kž·i- (→kžži-)	キッヅァ-	kž·a- (→kžža-)
一段型 (I)	1	探す	i	tumi-	トゥミ（ヅ）-	tumi·ž- (→tumi(ž)-)	トゥミ-	tumi·φ-	トゥミ-	tumi·φ-
	2	「来る」の敬語	ee	mmee-	ンメー（ヅ）-	mmee·ž- (→mmee(ž)-)	ンメー-／ンメイ-	*mmee·(i)- (→mmee-/mmei-)	ンメー-	mmee·φ-
		「する」の敬語、尊敬接辞	a	(s)ama-	（サ）マ（ヅ）-	(s)ama·ž- (→(s)ama(ž)-)	（サ）マイ-	*(s)ama·i-	（サ）マ-	(s)ama·φ-
不規則		いる	r	ur-	ウヅ- ウ-	ur·ž- (→už-) *ur·φ- (→u-)	ウリ-	ur·i-	ウラ-	ur·a-
			ii	*mii-					ミー	mii·φ-
		ある	r	ar-	アヅ- ア-	ar·ž- (→až-) *ar·φ- (→a-)	アリ-	ar·i-	アラ-	ar·a-
			SP	*njaa-					ニャー	*njaa-

	降る	ff	ff-	ッフ-	ff·i-	ッフィ-	ff·i-	ッファ-	ff·a-
		r	*fir-	フヅ／フー	*fir·(ž)- (→fiz-/fii-)	フリ-	*fir·i-	フラ-	*fir·a-
	知る・知っている	r	ssjuur-	ッシューヅ-	ssjuur·ž- (→ssjuuž-)	ッシューリ-	ssjuur·i-	ッシューラ-	*ssjuur·a-
				ッシュー-	*ssjuur·φ- (ssjuu-)				
		ss	*ss-			ッシ-	ss·i-	ッサ-	ss·a-
	死ぬ	n	sin-	スン-	sin·φ-	スニ-	sin·i-	スナ-	sin·a-
		i	*síni-			スニ-	*sini·φ-		
	来る	ž	kž-	キッ-	kž·φ-	キッヅィ-	kž·i- (→kžži-)		
		SP	*kuu-					クー-	*kuu-
	する	ii	sii-	シー（ヅ）-	sii·(ž)-	シー-	sii·φ-	シー-	sii·φ-
		ss	*ss-	ッス-	ss·i-	ッシ-	*ss·i-		
		SP	*sii-	スー-	*sii-				
名詞述語	コピュラ	r	jar-	ヤヅ-	jar·ž- (→jaž-)	ヤリ-	jar·i-	ヤラ-	jar·a-
				ヤ-	jar·φ- (→ja-)				
		r	*ar-	アヅ-	*ar·ž- (→až-) *ar·φ- (→a-)			アラ-	*ar·a-

〔凡例：1 つの基幹のみ持っている語幹を SP（特殊語幹）と呼ぶ。また、*はその語幹／基幹が不規則であることを表す。〕

1. 動詞の活用の特徴

(1) 活用型と語類の対応

久松方言の規則動詞は大きく「三段型動詞（V_{III}）」と「一段型動詞（V_{I}）」の 2 種類に分けられる。V_{III} にはおおよそ a 類（「書く」など日本語古典語の四段活用動詞）が所属するほか、b 類の「着る」「蹴る」（日本語古典語の一段活用動詞）や形容詞の動詞化接辞もこの型である。一方、V_{I} にはおおよそ b 類（「煮る」「起きる」など日本古典語の一・二段動詞）が属する。

V_{III} は、基幹 1 における語幹に後続する母音によって、さらに 4 つのグループに分けられる。また、基幹 2 と基幹 3 は、それぞれ語幹に母音·i と·a が後続することによって形成される。

グループ 1（$V_{III(1)}$）の動詞語幹は k、g、p、b、r で終わり、基幹母音·ž が後続することによって基幹 1 が形成される。本稿では、語幹が r 以外で終わるものをグループ 1-i（$V_{III(1\text{-}i)}$）とし、規則的な r 語幹動詞をグループ 1-ii（$V_{III(1\text{-}ii)}$）とする。また、$V_{III(1\text{-}ii)}$は後述の形態音韻規則 (1) の「//r// 削除」が適用される。ただし、「トゥヅ-」（取る）という r 語幹動詞のみ、基幹 2 でも、//r// が脱落することが可能である。また、形容詞を動詞化する接辞「カヅ-」は、基幹 1 は「カヅ-」（基幹母音·ž あり）と「カ-」（基幹母音なし）の 2 種類ある点で、規則的な r 語幹動詞と異なるため、グループ 1-iii（$V_{III(1\text{-}iii)}$）とする（「2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴」も参照）。

グループ 2（$V_{III(2)}$）の動詞語幹は s、z、t、f で終わり、基幹母音·i が後続することによって基幹 1 が形成される。ただし、唯一、z で終わる「アン（ズ）-」（言う・歌う）という動詞は、過去形と仮定形 1 のときにのみ、「ズ」が脱落することが可能である。

グループ 3（$V_{III(3)}$）の動詞語幹は母音 a、u で終わり、·u が後続することによって基幹 1 が形成される。本稿では、$V_{III(3)}$において、語幹が母音 a で終わるものをグループ 3-i（$V_{III(3\text{-}i)}$）とし、母音 u で終わるものをグループ 3-ii（$V_{III(3\text{-}ii)}$）とする。ただし、$V_{III(3\text{-}ii)}$ の「ビュー」（酔う）の基幹 1 は例外的に「ビューヅ-」になることが可能である。

グループ 4（$V_{III(4)}$）の動詞語幹は成節子音 m、n（不規則動詞「死ぬ」）、vv、ž で終わり、基幹 1 は語幹に母音が後続することはないため（本稿では·φ で示す）、語幹と同じである。本稿では、語幹が m、n で終わるものをグループ 4-i（$V_{III(4\text{-}i)}$）とし、vv で終わるものをグループ 4-ii（$V_{III(4\text{-}ii)}$）とし、ž で終わるものをグループ 4-iii（$V_{III(4\text{-}iii)}$）とする。また、vv 語幹の動詞（$V_{III(4\text{-}ii)}$）は後述の形態音韻規則（6）「//v// 削除」が適用され、ž 語幹の動詞（$V_{III(4\text{-}iii)}$）は形態音韻規則（7）「最小音韻語規則」と（8）「/ž/ の挿入」が適用される。

一方、V_{I} は、すべて·ž が動詞語幹に後続することによって基幹 1 が形成される。また、V_{I} は 2 つのグループに分けることが可能である。グループ 1 の動詞（$V_{I(1)}$）は語幹が i で終わり（受身形の場合は ee で終わり）、基幹 2 と基幹 3 は基幹母音がなく、語幹と同じである。ただし、形態音韻規則（2）の「//ž// 削除」で述べるように、ほとんどの場合、基幹 1 の·ž が脱落することが可能である。一方、グループ 2 の動詞（$V_{I(2)}$）は「来る」の敬語である「ンメー-」と「する」の敬語・尊敬接辞である「（サ）マ-」の 2 語がある。この 2 語は基幹 2 に基幹母音 i が出現することがあり、命令形が接辞「-ル」を取らず、「-チ」を取るのが特徴的である。ただし、「ンメー-」の基幹 2 は基幹母音·i の出現は任意であるが、出現する場合、「ンメイ-」になる。一方、「（サ）マ-」の基幹 2 は基幹母音の出現·i は義務的であり、「（サ）マイ-」になる。

また、本稿では、本報告書全体の執筆方針の都合上、陶（2023）における不規則動詞の認定方法とは異なり、2 種類の語幹があるもののみを不規則動詞とする。不規則動詞は、コピュラを含め、計 7 個ある。コピュラ以外の動詞は「動詞の活用の特徴」で記述し、コピュラは「名詞述語の活用の特徴」で記述する。

なお、基幹の表層形は、語幹に基幹を形成するための母音がつく。また、一部の基幹は、ある形態音韻規則が適用されて、はじめてできる。「動詞（コピュラを含む）の基幹形」の表においては、（→　）で基幹の表層形を示す。

本稿の記述において、基幹の形成にかかわる形態音韻規則は以下のとおりである。なお、以下の形態音韻規則は陶（2023）を参照している。

（1）//r// 削除：//r// で終わる語幹に·ž または子音で始まる屈折接辞がつく場合、//r// が削除される。

・ヌーヅ（乗る）

nuuž //nuur·ž-Ø//

（2）//ž// 削除：V_Iの基幹 1 は、文末の位置に現れ、過去接辞「-ター」のような非過去形でない場合や、非過去形であっても、名詞を修飾する場合など、文末でない位置に現れる場合は、//ž// の削除が任意に起こる。一方、文末の位置に現れ、かつ非過去形である環境においては、//ž// が削除されない。

・ミー（ヅ）ター（見た）

mii(ž)taa //mii·ž-tar//

・ミー（ヅ）　ピットゥー（見る人）

mii(ž) pžtu //mii·ž-Ø pžtu//

・{ミーヅ／×ミー}（見る）

{*miiž* /×*mii*} //mii·ž-Ø//

（3）//t// の破擦音化：//t// で終わる非拡張語幹に //i// と //i//（あるいは //j//）で始まる接辞がつくと、//t// は /c/ として実現される。

・タツ（立つ）

taci //tat·i-Ø//

（4）同母音連続化：基底形では //au//、 //ua//、 //ia// の連続があれば、表層形ではそれぞれ /oo/、 /aa/、/jaa/ になる。

・コー（買う）

koo //ka·u-Ø//

・ユカーディ（休む、休もう）

jukaadi //juku·a-di//

（5）母音連続削除：3 つ以上の同じ母音が連続する場合は、母音を 2 つまで削除しなければならない。一方、2 種類の母音が 3 つ以上連続する場合（//$V_iV_iV_j$//、//$V_iV_jV_j$//、//$V_iV_iV_jV_j$//）の場合、重複している母音を重複しないところまで削除した上で、（4）の「同母音連続化」の規則が適用される。（ただし、//$V_iV_iV_j$// において、//V_j// が //i// の場合を除く。）

・ビャーン（酔わない）

bjaan //bjuu·a-n//（bjuuan → bjaaan → bjaan）

・ビューイ（酔って、酔え）

bjuui //bjuu-i//

（6）//v// 削除：//vv// で終わる語幹に、母音で始まる接辞が後続しなければ、//v// が 1 つ削除され、/v/ と実現される（下地 2018: 28-29 の分析に従う。）

・ニヴター（眠った）

nivtaa //nivv·φ-taa//

（7）最小音韻語規則：最小音韻語は 2 モーラ以上でなければならない。そのため、語幹が 1 モーラで、かつ基幹母音がなく、非過去接辞 -Ø が後続する場合は、基底形でも 1 モーラであるが、表層形では 2 モーラにならなければならない。

・キッー（切る）

kžž //kž·φ-Ø//

（8）/ž/ の挿入：久松方言では、/CžV/ という音節構造は存在しない。そのため、基底形で //CžV// の構造がある場合は、表層形で /ž/ を 1 つ挿入し、/Cž.žV/（CV $_{成節子音}$.CV）のような音節構造にする必要がある（//Cž-V// → /CžžV/）。

・キッヅァディ（切る、切ろう）

kžžadi //kž·a-di//

（2）各活用形の特徴

〈断定非過去形〉

断定非過去形は基幹 1 に非過去接辞 -Ø がつくことによって形成され、表層形は基本的に基幹 1 と同じである。

・ズーユ　カキッ。（字を書く。）

ただし、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「切る」は、基幹 1 は 1 モーラの「キッ-」であるが、形態音韻規則（7）の「最小音韻語規則」により、断定非過去形は 2 モーラの「キッー」にならなければならない。

・ケーキユ　{キッー／×キッ}。（ケーキを切る。）

また、V_I の断定非過去形の基幹 1 の基幹母音「·ヅ」は、文末にある場合は省略できないが、その後に助詞などが後続する場合は省略可能である。以下は「ミーヅ（見る）」の例である（cf. 形態音韻規則（2））。

・テレビユ　{ミーヅ／×ミー}。（テレビを見る。）

・テレビユ　ミー(ヅ)ナ？（テレビを見るの？）

また、$V_{III(1\text{-}iii)}$の「形容詞の動詞化接辞」、および不規則動詞「いる」「ある」の場合は、「-カヅ」「ウヅ」「アヅ」以外に、最もよく使われる「-カー」「ウー」「アー」というような形式もある。そして、$V_{III(3\text{-}ii)}$の「酔う」は規則的な基幹 1「ビュー」がある一方、「ビューヅ」という不規則な形式も存在する。

不規則動詞「降る」の断定非過去形については、

ff- という規則的な $V_{III(2)}$語幹から作られた「ッフ」という形式がある一方、共通語から借用されたと考えられる $V_{III(1\text{-}ii)}$語幹 fir- から作られた「フヅ」という形式もある。また、「ヅ」が「フ」の母音 //i// に完全同化されてできた「フー」という形式もある。

不規則動詞「来る」については、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「切る」と同じように、2 モーラの「キッー」になる。また、不規則動詞「する」については、規則的である $V_{I(1)}$語幹 sii- から作られた「シーヅ」以外に、$V_{III(2)}$語幹 ss- と特殊語幹 sii- から作られた「ッス」と「スー」という形式もある。

無意志動詞の非過去形は未来の出来事を表す。

・アッツァ　アミヌドゥ　ッフ。（明日雨が降る。）

また、存在動詞や、動詞の可能形などの非過去形は、現在または未来の状態を表す。

・カマンドゥ　ヤマヌ　アー。（向こうに山がある。）

・プカンカイ　イディルバドゥ　ミーレーヅ。（外に出れば見られる。）

その他、習慣や恒常的な事実を表す用法がある。

・カヤ　マイニツ　テレビユ　ミーヅ。（彼は毎日テレビを見る。）

・ハルンカイ　ナヅチカー、パナヌドゥ　サキヅ。（春になれば桜が咲く。）

ただし、共通語とは異なり、未来の行動に対する意志や予定などを表す用法としてほとんど使われない。

〈断定過去形〉

断定過去形は基幹 1（多くの場合、断定非過去形と同形式）に過去接辞「-ター」がついて構成される。

・ホンヌ　ユムᵊター。（本を読んだ。）

ただし、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る）」・不規則動詞「キッ-（来る）」のように、断定過去形で形態音韻規則（7）の「最小音韻語規則」が適用され 1 モーラ分延長する基幹 1 は、過去接辞がつくと、2 モーラ以上になるため、「最小音韻語規則」が適用されない。

・ケーキユ　{キッター／×キッーター}。（ケーキを切った。）

V_Iの断定過去形は、「ヅ」が省略できる。

・テレビユ　ミー（ヅ）ター。（テレビを見た。）

また、$V_{III(1\text{-}ii)}$の r 語幹動詞の断定過去形は「ヅ」を省略する話者もいるが、省略することを許容しない話者もいる。

・デンシャンカイ　ヌー（ヅ）ター。（電車に乗った。）

・ヅヅゥー　トゥ（ヅ）ター。（魚を捕った。／魚を釣った。）

$V_{III(2)}$の「言う・歌う」の断定過去形は、規則的な形式「アンズター」がある一方、例外的に「ズ」が脱落した「アンター」の形式もある。

不規則動詞「降る」の断定過去形は「ッフター」と「フ（ヅ）ター」がある一方、「フヅター」の「ヅ」が「タ」の子音 /t/ に完全同化されて、「フッター（fittaa）」という形式もある。

・アミヌ　{ッフター／フター／フッター}。（雨が降った。）

〈推量非過去形〉

推量非過去形は接辞「-ムᵊ」を基幹 1 に後続させる。

「-ムᵊ」は琉球語学ではいわゆる m 語尾と呼ばれるものであり、古典日本語の「書かむ」の「む」と同じ起源だと考えられる（上村 1992）。久松方言の「-ムᵊ」は、「推量」「意志」「婉曲」など古典日本語の「む」と似たような意味を持つ。意志動詞の「-ムᵊ」は意志を表すが、あまり使われていないようだ。一方、非意志動詞の「ムᵊ」は推量を表すことが多い。

・キューヌ　ユネーンナ　カレーユ　ツフムᵊドー。（今日の夜はカレーを作るよ。）【意志】

・キューヌ　ユネーンナ　コンサートヌ　アー（ヅ）ムᵊドー。（今日の夜は（多分）コンサートがあるよ。）【推量】

ただし、推量と婉曲の境界があいまいで、場合によっては一つの文で「推量」と「婉曲」を同時に解釈することが可能である。上の「推量」の例文の場合、コンサートがあるかどうか確実ではないが、ある可能性が大きいと解釈できる。ただし、断定非過去の「アー／アヅ」より確実性が低く、柔らかく（婉曲に）聞こえる。

また、「-ムᵊチ（ドゥ）　ウー／-ムᵊチュー／-ムᵊチドゥー」という形式がある。この形式は、継続動詞に後続する場合は、ある動作を行っている最中を表す。

・ンナマ　ズーユ　カキヅムᵊチドゥー。（今字

を書いている最中だ。）

一方、瞬間動詞に後続する場合は、-ディチ（ドゥ）ウー／ッジュー」（〈意志形〉を参照）とほぼ同じ意味になり、将然を表す。

・パリム˚チドゥー。（晴れようとしている。／晴れつつある。）

・バスンカイ　ヌーヅム˚チドゥー。（バスに乗ろうとしている。）

また、「行く」「来る」に後続する場合は、「行っている／来ている最中」「向かっている最中」という意味になる。

・ンナマ　ヤーンカイ　イキヅム˚チドゥー。（今家に行っている最中だ。／今家に向かっている最中だ。）

そのほか、終助詞「パズ」を断定非過去に後続させる形式もある。「パズ」は共通語の「はず」と同根の形式であるが、久松方言では、「だろう」という推測の意味を表す終助詞的な意味で使われている。

・ピンギー　ピター　ヤマゴー　ツカフンドゥウーパズ。（逃げて行った泥棒は近くにいるだろう。）

〈推量過去形〉

推量過去形は接辞「-タム˚」を基幹 1 に後続させる。これは過去接辞「-ター」と m 語尾の「ム˚」からなっている形式である。

「-タム˚」は、主に「婉曲」を表す。以下の例文における「フォータム˚」は「フォーター」より柔らかく聞こえるが，場合によっては他人行儀にも聞こえるという。

・アシュー　フォータム˚。（昼ご飯を食べた。）

疑問文の場合は、愛情や気遣いが込もったニュアンスもある。以下の例文は親が愛情を込めて子供に対して聞く文である。ここでの「フォータム˚」は「フォーター」より愛情や気遣いがあるように聞こえると言う。

・アシュー　フォータム˚ナ？（昼ご飯を食べたの？）

一方、「パズ」は、断定非過去だけでなく、断定過去にも後続し、過去の推量を表す。

・タローヌ　キッターパズ。（太郎が来ただろう。）

〈命令形〉

命令形は、V_{III} の動詞語幹に命令接辞「-i」が付き（すなわち表層形は基幹 2 と同じ）、V_{I} の動詞語幹に命令接辞「-ル」が付くことによって形成される。

・ズーユ　カキ。（字を書け。）

・プコー　ミール。（外を見ろ。）

ただし、$V_{III(1\text{-}ii)}$の「取る」は規則的な命令形「トゥリ」がある一方、r が脱落した「トゥイ」という不規則な命令形もある。

・ヅヅゥー　{トゥリ／トゥイ}。（魚を釣れ。）

$V_{I(2)}$の「来る、いる」の敬語と「する」の敬語・尊敬接辞の命令形は、例外的な接辞「-チ」が語幹につき、それぞれ「ンメーチ」と「（サ）マチ」になる。また、「ンメーチ」は「ンメチ」と発音されることもある。

・ウマンカイ　ンメ（ー）チ。（ここへいらっしゃいませ。）

・ユクイサマチヨー。（おやすみなさいね。／お休みくださいね。）

不規則動詞「死ぬ」の命令形は、$V_{III(4\text{-}i)}$の語幹「スン-」と $V_{I(1)}$の語幹「スニ-」の二つの語幹が使われることが可能である。そのため、命令形はそれぞれ「スニ」と「スニル」である。

不規則動詞「来る」の命令形は「クー」である。また、不規則動詞「する」の命令形は語幹「シー-」から作られた「シール」と語幹 ss- から作られた「ッシ」があるが、語幹「スー-」から作られた命令形は存在しない。

〈禁止形〉

禁止形は基幹 1 に接辞「-ナ」がつくことによって形成される。

・ズーユ　カキッナ。（字を書くな。）

ただし、基幹 1 が 1 モーラである $V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る）」・不規則動詞「キッ-（来る）」は、そのまま基幹 1 に接辞「-ナ」が後続する以外に、2 モーラまで延長された断定非過去形「キッー」に、接辞「−ナ」が後続することもある。

・ウマンカイ　キッ（ー）ナ。（ここに来るな。）

〈意志形〉

意志形は、V_{III} の場合は、基幹 3 に「-ア」「-ディ」がつくことによって形成される。V_{I} の場合は、基幹 3 に「-ヨー」「-ディ」がつくことによって形成される。ただし、「-ヨー」がつく場合は、「トゥミヨー→トゥミョー（探す、探そう）」「ミーヨー→ミョー（見

る、見よう)」のように音が交替することもある。また、「-ディ」に終助詞「ヤー」や「ドー」などの終助詞が後続し、「-ア」「-ヨー」に「イ」や「ヤー」などが後続することが可能である。また、「来る」の敬語「ンメー-」、および「する」の敬語・尊敬接辞「(サ)マ-」には、「-ディ」がつくことは可能であるが、「-ヨー」がつくことはできない。

すべての形式は意志と勧誘を表すことが可能である。

・ホンヌ　{ユマディ(ヤー)／ユマー(ヤー)}。(本を読む、本を読もう。)

・プカンカイ　{イディディ（ヤー）／イディヨー(ヤー)／イデョー(ヤー)}。(外に出る、外に出よう。)

ただし、「-ディ」は、「-ア」「-ヨー」と異なり、平叙文のみならず、疑問文で使われることも可能であり、相手の意志を聞いたり、相手を勧誘することを表すことが可能である。

・ホンヌ　ユマディナ？（本を読むの？、本を読もうか。)

・プカンカイ　イディディナ？(外に出るの？、外に出ようか。)

また、「-ディ」は「-ディチ（ドゥ）　ウー」(縮約形：ッジュー）の形式で使われ、ある動作をこれからしようとすること、またはある動作がこれから起ころうとしていることを表す将然の用法もある。

・バスンカイ　{ヌーラディチドゥー／ヌーラッジュー}。(バスに乗ろうとしている。)

・アミヌ　{ッファディチドゥー／ッファッジュー}。(雨が降ろうとしている。)

・カイガドゥ　{イカディチ　ウー／イカッジュー}。(彼が行こうとしている。)

〈予定・義務形〉

予定・義務形は形式名詞「ガマタ」が基幹1につくことによって形成され、予定と義務をあらわす。

・アグンカイ　イデョー　ガマタ。(友達に会う予定だ。)【予定】

・ヴヴァタガドゥ　イキッ　ガマタ。(あなたたちが行くべきだ。)【義務】

ただし、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る)」・不規則動詞「キッ-（来る)」は断定・連体非過去形のみならず、基幹1の「キッ-」にも、「ガマタ」がつくことが可能である。下地（2018）では、この「形式名詞は、文法化の途上にあり、屈折接辞化しつつある」と述べられており、「二次的屈折接辞」と呼ばれている（下地2018: 69-71、100-101)。本稿では、基本的に断定・連体非過去形につく場合の「ガマタ」を形式名詞と分析するが、「切る」と「来る」のように1モーラの基幹1につく「-ガマタ」を名詞化接辞と分析する。

・タローヤ　アッツァ　{キッー　ガマタ／キッガマタ}。(太郎は明日帰ってくる予定だ。)

そのほか、名詞化接辞「-ムᵒタ」が基幹1につき、予定と義務を表すことも可能であるが、ごく一部の話者しか使用しないようであり、この形式を知らない話者も多くいる。また、この接辞は「ガマタ」の縮約形だと考えられ、意味・機能は「ガマタ」とほぼ同じである。

・アグンカイ　イデョームᵒタ。(友達に会う予定だ。)【予定】

・ヴヴァタガドゥ　イキッムᵒタ。(あなたたちが行くべきだ。)【義務】

この形式で使われる場合、不規則動詞「する」については、「シー（ヅ）ムᵒタ」「(ッ）スムᵒタ」の形式があるが、「スー-」という基幹に「-ムᵒタ」がついた「スームᵒタ」という形式はない。

・ウヌ　スグトゥーバ　ヴヴァタガドゥ　{シー(ヅ)ムᵒタ／(ッ)スムᵒタ／×スームᵒタ}。(この仕事はあなたたちがやるべきだ。)

$V_{III(4)}$の「キッ-(切る)」・不規則動詞「キッ-(来る)」については、常に基幹1の「キッ-」に「-ムᵒタ」が後続する「キッムᵒタ」の形式が使われ、断定・連体非過去形「キッー」に「-ムᵒタ」が後続する「キッームᵒタ」という形式はない。

・タローヤ　アッツァ　{キッムᵒタ／×キッームᵒタ} ドー。(太郎は明日来る予定だよ。)

また、「義務」の意味で使われる場合は、いずれの形式も、その否定（～すべきではない）は、主題助詞「ヤ」とコピュラの否定形「アラン」によって作られる。

・ヴヴァタガドゥ　{イキッ　ガマター　アラン／イキッムᵒター　アラン}。(あなたたちが行くべきではない。)

〈連体非過去形〉

連体非過去形は、断定非過去形とほぼ違いはない。

いずれも基幹 1 に非過去接辞 -Ø がつくため、表層形は基本的に基幹 1 と同じである。

・ズーユ　カキッ　ピットゥ。（字を書く人。）

また、V_I は連体非過去形の場合、基幹 1 の基幹母音「ッヅ」が省略可能である。以下は「ミーヅ（見る)」の例である（cf. 形態音韻規則（2))。

・テレビユ　ミー（ヅ）　ピットゥ。（テレビを見る人。）

〈連体過去形〉

連体過去形は断定過去形と同形である。いずれも基本的に基幹 1（多くの場合、連体非過去形と同形式）に過去接辞「-ター」がついて構成される。

・ホンヌ　ユムᵖター　ピットゥ。（本を読んだ人。）

〈中止形 1〉

V_{III} の中止形 1 は語幹に「-i」がつくことによって形成される（すなわち表層形は基幹 2 や命令形と同じである)。一方、$V_{I(1)}$ の中止形 1 は語幹と同形であるが、$V_{I(2)}$ の中止形 1 は「-i」が必要な場合がある（ンメー- は任意的に「-i」を必要とし、サマ- は義務的に「-i」を必要とする)。ただし、V_{III} と $V_{I(1)}$ はいずれも中止形 1 の表層形では、1 モーラ伸びることがありうる。

中止形 1 は付帯状況と継起を表すことが可能であるが、その用法は付帯状況に偏っている。

・ティーユ　フリ（ー）　アスキ　ウー。（手を振って歩いている。）

また、中止形 1 は補助動詞を後続させることも可能である。以下の例では、「サーヅ（連れる)」の中止形 1「サーリ」の後に、「イキッ（行く)」の中止形 1「イキ」が付き、さらに補助動詞の「フィー-（くれる)」が後続している。

・サーリ　イキ　フィールヨー。（連れて行ってくださいよ。）

V_{III} の「カ-（買う)」「ファ-（食べる)」「ウ-（追う)」「ビュー-（酔う)」や、V_I の「ミー-（見る)」、不規則動詞、「ンメー-（「来る」の敬語)」「サマ-（「する」の敬語・尊敬接辞)」、「シー-（する)」など、語幹が i 以外の母音で終わるか長音で終わる動詞は、中止形 1 はさらに 1 モーラ伸びることはない。

〈中止形 2〉

中止形 2 は、動詞の基幹 2 に接辞「-ッティ」がつくことによって形成される。中止形 2 も同様に付帯状況と継起を表すことができるが、その用法は継起に偏っている。この場合、「カラ」が後続することも多い。

・ウプニュー　キッヅィッティ（カラ）　ユディル。（大根を切ってから茹でなさい。）

「-ッティ」は「-シティ」になることもある。

また、「-シティ」「-ッティ」は、不規則動詞「いる」と「ある」の語幹「ウ-」「ア-」が 1 モーラ伸びることを要求し、「ウーッティ」「アーッティ」になることも可能である。それ以外に、不規則動詞「いる」は「ウティ」、不規則動詞「する」は「シティ」という形式も持つ。

$V_{III(1\text{-}ii)}$ の「取る」については、「トゥリッティ」という規則的な形式がある一方、/r/ が脱落した「トゥイッティ」という形式もある。

〈仮定形 1〉

仮定形 1 は、接辞「-チカー」が基幹 1 につくことによって形成される。

・シュクダイユ　シーチカー　アッピッガ　イカレー。（宿題をしたら遊びに行ける。）

また、$V_{III(1\text{-}iii)}$ の「カ-（形容詞の動詞化接辞)」、$V_{III(4\text{-}iii)}$ の「キッ-（切る)」および不規則動詞の「キッ-（来る)」「ア-（ある)」「ウ-（いる)」など基幹 1 が 1 モーラの動詞に「-チカー」がつくと、基幹 1 が任意に 1 モーラ伸びることも可能であり、「カ（ー）チカー」「キッ（ー）チカー」「ア（ー）チカー」「ウ（ー）チカー」になる。

$V_{III(2)}$ の「アン（ズ）-（言う・歌う)」は、断定／連体過去形と同じように、「チカー」が後続する場合、基幹 1 の「ズ」が脱落し、「アンチカー」になることも可能である。

また、「チカー」のほかに、「チカラー」「ツカー」「ツカラー」などの形式もある。

〈仮定形 2〉

仮定形 2 は、接辞「-バ」がいずれかの基幹につくことによって形成される。ただし、使われる基幹が基幹 1 または基幹 2 の場合は、仮定節の出来事は実現可能であるというニュアンスがある。一方、基幹 3 が使われる場合は、仮定節の出来事はほぼ実現不可能であるというニュアンスがある。以下の例文で、「ユクーバ」「ユクイバ」が使われると、「今日は休

むことができる。そして、休んだあと体調がよくなる」という意味になる。一方、「ユカーバ」が使われると、「今日は休むことができないが、もし休めるのであれば、体調がよくなる」という意味になる。

・キューヤ　{ユクーバ／ユクイバ／ユカーバ}　ドゥーヌ　カヅフ　ナヅ。（今日は休めば体が軽くなる（=体調がよくなる）。）

V_Iはすべての基幹に「-バ」が後続できる以外、基幹2または基幹3に「-ルバ」が後続することも可能である。

・プカンカイ　{イディヅバドゥ／イディバドゥ}　ミーレー。（外に出れば見れるよ。）

・プカンカイ　{×イディヅルバドゥ／イディルバドゥ}　ミーレー。（外に出れば見れるよ。）

$V_{III(1\text{-}ii)}$の「取る」については、「-バ」が基幹2につく場合は、「トゥリバ」以外に、「トゥイバ」という/r/ が脱落した形式もある。

$V_{III(1\text{-}iii)}$の「カ-（形容詞の動詞化接辞）」、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る）」および不規則動詞の「キッ-（来る）」「ア-（ある）」「ウ-（いる）」など基幹1が1モーラの動詞に「-バ」がつくと、基幹1が常に1モーラ伸びて、「カーバ」「キッーバ」「アーバ」「ウーバ」になる。

不規則動詞「降る」については、「ff-」と「fir-」の2つの語幹があるが、基幹3が使われる場合は、「fir-」が使えない（つまり、「フラバ」という言い方はない）。これは、「fir-」が共通語から借用された語幹と考えられ、すべての活用に完全には適用されていないためだと考えられる。

不規則動詞「死ぬ」は、V_{III}の語幹「スン-」とV_Iの語幹「スニ-」の両方を持っているが、この場合、V_{III}の基幹1「スン-」で作られた「スニバ」のみならず、V_Iの基幹1「スニ-」で作られた「スニルバ」という形式も持つ。

〈同時形〉

同時形は基幹1に「-シャーナ」がつくことによって形成される。

・アンズシャーナ　ブドゥヅ。（歌いながら踊る。）

「-シャーナ」は$V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る）」の基幹1「キッ-」が1モーラ伸びることを要求することがあり、「キッシャーナ」以外に、「キッーシャーナ」になることもある。また、「-シャーナ」は不規則動詞「いる」の基幹1「ウ-」が1モーラ伸びることを常に要求し、「ウーシャーナ」になり、「ウシャーナ」という形式はない。

また、「-ガツナ」という接辞もあるが、あまり使われない。「-ガツナ」も基幹1につくが、$V_{III(4\text{-}iii)}$の「切る」の基幹1「キッ-」、不規則動詞「いる」の基幹1「ウ-」が1モーラ伸びることを常に要求し、それぞれ「キッーガツナ」「ウーガツナ」になる。また、不規則動詞「する」の「ッス-」という基幹1に「-ガツナ」がつくことは不可能である。なお、継続動詞のみが同時形を持つ。

〈理由形1〉

理由形1は仮定形2と同形式であるが、基幹3が使われない。また、理由形1がつく動詞は、断定非過去と同様に、意志や予定を表すことがほとんどなく、存在や可能の状態、習慣、恒常的な事実などを表すことが多い。

・マイニツ　ジュクンカイ　{イキッバ／イキバ}　アスピッ　ジカンナ　ニャーン。（毎日塾に行くので遊ぶ時間はない。）

なお、「ア-（ある）」「ウ-（いる）」「カ-（形容詞の動詞化接辞）」は「アリバ」「ウリバ」「カリバ」という基幹2が使われる形式より、「アーバ」「ウーバ」「カーバ」という基幹1が使われる形式が多用される。一方、それ以外の動詞、例えば「イキッ（行く）」の場合は、「イキッバ」という基幹1が使われる形式より、「イキバ」という基幹2が使われる形式が多用される。

〈理由形2〉

理由形2はもっぱら1人称の意志を表すため、意志動詞のみが持つ形式である。理由形2は、基幹3に「-ッジャバ」がつくことによって形成される。なお、この「-ッジャバ」は、意志接辞「-ディ」とコピュラの理由形「ヤバ」が1音韻語になった形式である。

・タクシュー　アビリ　ウカッジャバ、パーガリーチ　ビョーインカ　ピり。（タクシーを呼んでおくから、早く病院へ行きなさい。）

〈逆接形〉

逆接形は動詞の断定（非）過去形に接続助詞「ス

ゥガ」がつくことによって形成される。この場合、焦点助詞の「ドゥ」が「スゥガ」のあとに現れることが多い。

・ッシュースゥガドゥ　ナラーサン。（知っているけど、教えない。）

また、文末で「スゥガヤー」という形式で、反実仮想や後悔を表すことも可能である。下の例は、中止形 1「コー」に焦点助詞「ドゥ」、および不規則動詞「する」の過去形「スター」が付き、さらに、スゥガヤーが続く構造をとっている。

・ンナピッツァ　ヤスカーチカー　コードゥスタースゥガヤー。（もっと安かったら買えたのに。）

〈目的形〉

目的形は基幹 1 に接辞「-ガ」がつくことによって形成され、後ろに移動動詞が現れる。ただし、後ろの移動動詞は省略されることもある。

・バンター　エーガ　ミーガ　（イカディ）。（私たちは映画を見に行く。）

また、1 モーラの基幹 1 を持つ $V_{III(4\text{-}iii)}$の「キッ-（切る）」のあとに後続する場合は、基幹は必ず 1 モーラ伸びる。

・ケーキユ　{キッーガ／×キッガ}　イカディ。（ケーキを切りに行く。）

〈譲歩形〉

譲歩形は V_{III} の基幹 2 または基幹 3 に「-バンマイ」、V_{I} の基幹 2 または基幹 3 に「-ルバンマイ」がつくことによって形成される。

・{ユミバンマイ／ユマバンマイ}　ッサレーン。（読んでもわからない。）

・ミールバンマイ　ッサレーン。（見てもわからない。）

また、「-バンマイ」「-ルバンマイ」は「-バーマイ」「-ルバーマイ」になることもある。「ユミバンマイ」「ユマバンマイ」「ミールバンマイ」は「ユミバーマイ」「ユマバーマイ」「ミールバーマイ」になることが可能である。

さらに、「-バンマイ／-バーマイ」「-ルバンマイ／-ルバーマイ」の「ル」「バ」「ルバ」が落ちることもある。そのため、「ユミバンマイ」「ユマバンマイ」「ユミバーマイ」「ユマバーマイ」は「ユミンマイ」「ユマンマイ」「ユミーマイ」「ユマーマイ」になり、「ミールバンマイ」は「ミーバンマイ」「ミールンマイ」「ミーンマイ」「ミーバーマイ」「ミールーマイ」「ミーマイ」になることが可能である。

なお、「ミー-」はすでに長音を持つ基幹であるため、「-ーマイ」がつくとき、「ー」が 1 つ削除され、「ミーマイ」になるが、「トゥミ-（探す）」のような長音を持たない基幹の場合は、そのまま「トゥミーマイ」になる。

不規則動詞「降る」は、語幹「fir-」で作られる「フリーマイ」と「フリンマイ」という形式は存在しない。また、不規則動詞「死ぬ」は、V_{III} の語幹「スン-」でも V_{I} の語幹「スニ-」でも譲歩形が作られる。不規則動詞「する」は語幹「シー-」でのみ譲歩形が作られる。

また、中止形 2 のあとに「-マイ」がつく譲歩形も存在する。ただし、不規則動詞「いる」と「する」の場合は、中止形 2 にそれぞれお「ウティ」と「シティ」という形式はあるが、これらの形式で作られる譲歩形はない。

・ベンキョー　{シーッティマイ／×シティマイ}　セーセキヌ　アガラン（勉強しても成績があらがない。）

〈否定形〉

否定形は、非過去の場合は基幹 3 に「-ン」がつくことによって形成され、過去の場合は、基幹 3 に「-ダム゜」がつくことによって形成される。

・ホンヌバ　ユマン。（本を読まない。）

・ホンヌバ　ユマダム゜。（本を読まなかった。）

$V_{III(i\text{-}iii)}$の「形容詞の動詞化接辞」は「-カラン／カラダム゜」という否定形になることはできない。この場合、共通語の「～くは」に相当する「ッファ」に、「ない／なかった」に相当する「ニャーン／ニャーダム゜」が後続する「-ッファ　ニャーン／-ッファ　ニャーダム゜」の形式になる。ただし、「く」に相当する「フ」に「ニャーン／ニャーダム゜」が後続する「-フ　ニャーン／-フ　ニャーダム゜」の形式を使う話者もいる。

・{タカッファ／タカフ}　ニャーン。（高くない。）

・{タカッファ／タカフ}　ニャーダム゜。（高くなかった。）

不規則動詞「いる」の否定形は「ウラン／ウラダ

ム゜」と、「ミー-」で作られた「ミーン／ミーダム゜」の 2 つの形式がある。不規則動詞「ある」の否定非過去形は「ニャーン／ニャーダム゜」になり、「ar-」で作られた「アラン／アラダム゜」という形式はない。不規則動詞「知る」の否定非過去形は「ss-」で作られた「ッサン／ッサダム゜」と「ssjuur-」で作られた「ッシューラン／ッシューラダム゜」の 2 形式がある。不規則動詞「来る」の否定非過去形は「クー-」で作られた「クーン／クーダム゜」になり、不規則動詞「する」の否定非過去形は「シー-」で作られた「シーン／シーダム゜」という形式のみである。

また、否定形関連の形式もいくつかある。ここでは「否定意志形」「否定中止形」「否定仮定形」「否定理由形」「否定譲歩形」の 5 つの形式を紹介する。

否定意志形は、語幹に「-アンマ／-アーマ」（表層的には V_{III} の基幹 3 に「-ンマ／-アマ」、V_{I} の基幹 3 に「-アンマ／-アーマ」）がつくことによって形成され、意志の否定を表す。ただし、この二種類の形式のうち、「-アーマ」のほうがごく一部の話者にしか使用されていないようであり、この形式を知らない話者も多くいる。

V_{III} は以下のようになる。

・ホンヌ　{ユマンマ／ユマーマ}。（本を読まない、本を読むまい。）

V_{I} の語幹に「-アンマ／-アーマ」がつく場合は、「トゥミアンマ／トゥミアーマ→トゥミャーンマ／トゥミャーマ（探さない、探すまい）」「ミーアンマ／ミーアーマ→ミャーンマ／ミャーマ（見ない、見るまい）」のような音の交替が義務的に起こる。また、久松方言では、/jaa/ が /ee/ になることもあるので、「トゥミャーンマ／トゥミャーマ」「ミャーンマ／ミャーマ」が「トゥメーンマ／トゥメーマ」「メーンマ／メーマ」になることもある。

・テレビユ　{ミャーンマ／メーンマ／ミャーマ／メーマ}。（テレビを見ない、テレビを見るまい。）

不規則動詞「来る」と「する」の否定意志形はそれぞれ「コーンマ／コーマ」「シャーンマ／シェーンマ／シャーマ／シェーマ」になる。

また、「-アンマ／-アーマ」には「婉曲」と思われる意味もある。

・ケーキヤ　アー　ッスナ？―ンニャ　ニャーンマ。（ケーキはある？―もうないよ。）

・ウユ　ッシューナ？―ッサンマ。（これ知っている？―知らない。）

以上の「ニャーンマ」「ッサンマ」は、否定非過去形の「ニャーン」「ッサン」より柔らかく（婉曲に）聞こえるという。

否定中止形は基幹 3 に接辞「-ダナ（シ）」「-ダンシ」「-ダム゜シ」がつくことによって形成される。

・シュクダイユ　{カカダナ（シ）／カカダンシ／カカダム゜シ}　ガッコーンカイ　イキッター。（宿題を書かずに学校に行った。）

否定仮定形は仮定形 1 の否定形であり、基幹 3 に「-ダカ（ラ）ー」がつくことによって形成される。

・ムヌー　ファーダカ（ラ）ー　ドゥーユ　ヤマスドー。（ご飯を食べなければ体を壊すよ。）

$V_{III(1\text{-}iii)}$ の「形容詞の動詞化接辞」は、「-フ　ニャーン」または「-ッファ　ニャーン」における「ニャーン」を否定仮定形 1 の「ニャーダカ（ラ）ー」にすることによって形成される。

・{ピッグルフ／ピッグルッファ}　ニャーダカープカンカイ　イディヨー。（寒くなければ外に出よう。）

不規則動詞「いる」は、「ウラダカ（ラ）ー」以外に、「ミー-」という語幹／基幹を使う「ミーダカ（ラ）ー」という形式もある。不規則動詞「ある」は、「アラダカ（ラ）ー」という形式が使われず、「ニャー-」という特殊な語幹／基幹が使われ、「ニャーダカ（ラ）ー」という形式になる。不規則動詞「来る」は、「クー-」という語幹／基幹が使われ、「クーダカ（ラ）ー」という形式が使われる。また、「する」は、「シー-」という語幹／基幹のみが使われ、「シーダカ（ラ）ー」になる。

否定理由形は理由形の否定形であり、否定形にコピュラの理由形「ヤバ」が後続することによって形成されると考えられる。ただし、「否定形基幹＋ヤバ」の形式ではあまり使われず、否定形の「-ン」の音素 /n/ が「ヤバ」の前にコピーされる「ニャバ」の形式、または「ニバ」の形式がよく使われる。

・ピッグルフ　{ニャーンニャバ／ニャーンニバ}　プカンカイ　イディヨー。（寒くないので外に出よう。）

・ジンヌ　ニャーンニャバドゥ　カーレーン。

（お金がないから買えない。）

否定譲歩形は否定中止形に「-マイ」がつくことによって形成される。

・ナーユ　{カカダナマイ／カカダナシマイ／カカダンシマイ／カカダム˚シマイ}　ゾーブン。（名前を書かなくてもいい。）

また、基幹 3 に「-ニャーンマイ」がつく否定譲歩形もある。

・ナーユ　カカニャーンマイ　ゾーブン。（名前を書かなくてもいい。）

ただし、不規則動詞「ある」の否定譲歩形は、否定中止形のあとに「-マイ」がつく「ニャーダナ(シ)マイ」「ニャーダンシマイ」「ニャーダム˚シマイ」以外に、「ニャーンマイ」「ニャーバーマイ」「ニャーンバンマイ」などの特殊な形式もある。

〈丁寧形〉

久松方言では、丁寧形はない。ただし、丁寧さを表すために、「推量非過去形」「推量過去形」のような、いわゆる m 語尾「-ム˚ 」が使われる形式を使うことが可能である。

〈使役形〉

V_{III} の使役形は基幹 3 に「-ス」または「-シミヅ」がつき、V_{I} の使役形は基幹 3 に「-シミヅ」のみがつくことが可能である。また、接辞「-ス」は $V_{III(2)}$ の活用パターンに準じて活用し、接辞「-シミヅ」は $V_{I(1)}$ の活用パターンに準じて活用する。

・オカーガドゥ　ウトゥトゥンカイ　マッチャガマンカイ　{イカスター／イカシミター}。（お母さんが弟に店に行かせた。）【V_{III}：イキッ-「行く」】

・カユー　{×キッムイディサスター／キッムイディシミター}。（彼を怒らせた。）【V_{I}：キッムイディ-「怒る」】

$V_{III(1\text{-}iii)}$ の「形容詞の動詞化接辞」は、「-カラス」という使役形のみあり、「-カラシミヅ」という使役形はない。

・ホンヌ　ニーユ　{タカカラシ／×タカカラシミル}。（本の値段を高くしなさい。）

不規則動詞「来る」の使役形は「クーシミヅ」であり、不規則動詞「する」の使役形は「シーシミヅ」になる。また、久松方言保存会（2020: 265）では、「する」の使役形として「シミヅ」という形式も載っているが、許容しない話者もいる。

・ウイン　シミル。（この人にさせなさい。）（久松方言保存会 2020: 265）

〈受身形〉

動詞の受身形は、V_{III} は基幹 3 に「-レーヅ」が付き、V_{I} は基幹 3 に「-ラレーヅ」がつくことによって形成される。ただし、「-ラレーヅ」が $V_{III(2)}$ の r 語幹動詞（「ヌーヅ（乗る）」、「トゥヅ（取る）」「ウー／ウヅ（いる）」、「ッシュー（ヅ）（知る）」）につく場合は、基幹 3 の「ラ」が脱落することが多く、V_{I} につく場合は、「-ラレーヅ」の「ラ」が脱落することが多い。また、「-（ラ）レーヅ」は V_{I} の活用パターンに準じて活用する。

・タローヤ　ウトゥトゥンドゥ　タタカレーター。（太郎は弟に叩かれた。）

・コーラヤ　ウトゥトゥンドゥ　{トゥラレーター／トゥレーター}。（コーラは弟に取られた。）

なお、いわゆる間接受身（迷惑受身）は基本的に作れないが、「ッファレーター／フラレーター（降られた）」のように、作れるものもわずかにある。ただし、不規則動詞「降る」の場合は、ほかの r 語幹動詞のように、「ラ」が脱落した「フレーター」という形式はない。

・×ヤマグンカイ　ヅヅァレーター。（意図：泥棒に入られた。）

・アミンカイ　{ッファレーター／フラレーター／×フレーター}。（雨に降られた。）

〈可能形〉

動詞の可能形は受身形と同じであり、V_{III} は基幹 3 に「-レーヅ」が付き、V_{I} は基幹 3 に「-（ラ）レーヅ」がつくことによって形成される。

また、V_{I} の断定非過去形は文末にある場合、基幹母音の「·ヅ」が省略できないことをすでに言及した。しかし、「-（ラ）レーヅ」は V_{I} に準じて活用するにもかかわらず、断定非過去形として文末にあっても、「·ヅ」が省略されることが可能である。

・シュクダイユ　シーチカー、アッピッガ　イカレー（ヅ）。（宿題をしたら、遊びに行ける。）

なお、可能の意味で使われる場合は、述語焦点形の「-（ラ）レードゥス」の形で使われることが多い。この形は可能接辞の「-（ラ）レー」に、焦点助詞の

「ドゥ」と軽動詞「する」の接語形「ス」が後続することによって形成された形式である。なお、動詞の述語焦点形は動詞の断定非過去形が焦点化した形式である。すでに「断定非過去形」で言及したように、断定非過去形は意志や予定を表すことがほとんどなく、存在や可能の状態、習慣、恒常的な事実などを表すことが多い。また、そのため、述語に焦点が来る場合（できることが問題となるのではなく、そのことができるかどうかという能力の有無が問題となる場合）、この形式が使われることが一般的である。

・ウヌ　ッファガマー　ンナマ　ヤラビガマスガドゥ、ムズカス　ズーユバ　カカレードゥス。（その子はまだ小さいけど、難しい字が書ける。）

また、不規則動詞「来る」の可能形は「クー（ラ）レー（ヅ）」である。

〈尊敬形〉

尊敬形はさまざまな形式がある。まず、V_{III}の尊敬形は基幹3に「-マヅ」がつくことによって形成され、V_{I}の尊敬形は基幹3に「-サマヅ」がつくことによって形成されることが多い。また、「-（サ）マヅ」は命令形以外、V_{I}とほぼ同じ活用をするため、本稿では$V_{I(2)}$に分類する。

・シンシーガ　カカマヅ。（先生がお書きになる。）

・シンシーガ　プカンカイ　イディサマター。（先生が外にお出になった。）

そのほか、V_{III}はすべての基幹に「-サマヅ」がつくことができ、V_{I}は基幹3（または基幹2）のみならず、基幹1にも「-サマヅ」がつくことができる。ただし、「キッ-（切る）」のような1モーラの基幹の場合は2モーラにして「-サマヅ」を付ける必要がある。

・シンシーガ　ウヌ　ロンブンヌ　{カキッサマヅ／カキサマヅ／カカサマヅ}。（先生がその論文をお書きになる。）

・シンシーガ　プカンカイ　{イディヅサマター／イディサマター}。（先生が外にお出になった。）

ただし、V_{III}の基幹1、V_{I}のすべての基幹に「サマヅ」がつく場合、基幹のあとに焦点助詞（平叙文：ドゥ、肯否疑問文：ユ）がつくことがある。この場合の「サマヅ」を接辞ではなく、語と分析する。

・シンシーヤ　ホンヌ　ユムドゥ　サマター。（先生は本をお読みになった。）

・ミー（ヅ）ユ　サマディナ？（ご覧になりますか。）

また、受身形（尊敬を表すと考えられる）に「-サマヅ」がつく二重敬語の形式も見られる。

・ッサレーサマヅン？（ご存じですか。）

・ミーラレーサマター。（ご覧になった。）

不規則動詞「来る」の敬語と「する」の敬語にも尊敬形がある。「来る」の敬語の尊敬形は「ンメー（ヅ）サマヅ」「ンメー（ヅ）ドゥ　サマヅ」以外に、「ンメー（ラ）レーサマヅ」のように三重敬語の表現もある。「する」の敬語の尊敬形は「（サ）マ（ラ）レー（ヅ）」になる。以下の「ユママレーター」（動詞「ユム」＋尊敬接辞「-（サ）マ」＋受身敬語「-（ラ）レー」）は「ユマレーサマター」（動詞「ユム」＋受身敬語「-（ラ）レー」＋尊敬接辞「-（サ）マ」）に言い換えることも可能である。

・キューヌ　シンブンヌバ　{ユママレーター／ユマレーサマター}？（今日の新聞はお読みになった？）

不規則動詞「知る」の尊敬形はV_{I}語幹の「ssjuur-」で作られた「ッシューラマヅ」「ッシューラサマヅ」「ッシューサマヅ」「ッシュードゥ　サマヅ」などが一般的である。また、V_{III}語幹の基幹3で作られた「ッサ（サ）マヅ」という形式はないが、基幹2で作られた「ッシ（ー）サマヅ」という形式も使われる。

$V_{III(3)}$の「ファ-（食べる）」の敬語形は「ンキギヅ」「ンキギ（ヅ）サマヅ」「ンキギ（ヅ）ドゥ　サマヅ」になる。

・ンキギサマチ。（召し上がってください。）

〈継続形〉

継続形は、中止形1にアスペクト補助動詞「ur-」が後続する形式であり、継続動詞に後続すれば「動作の継続」を表し、瞬間動詞に後続すれば「状態の継続」を表すことが一般的である。「ur-」は本動詞として使われる場合、「いる」という意味である。「いる」という動詞には$V_{III(1\text{-}ii)}$語幹「ur-」とV_{I}語幹「ミー-」の2つの語幹があるが、アスペクト補助動詞として使われる場合は、V_{III}語幹のみが使われる。なお、中止形とアスペクト補助動詞「ur-」の断定非過去形

「ウー」が 1 つの音韻語（以下の「ユミュー」「ウテュー」など）になることが多い。

・タローヤ　ホンヌ　{ユミ　ウー／ユミュー}。（太郎は本を読んでいる。）【動作の継続】

・ズーンカイ　{ウティ　ウー／ウテュー}。（地面に落ちている。）【状態の継続】

・タチ　{ウラダナシ／×ミーダナシ}　ウマン　ビッヅィル。（立っていないでそこに座れ！）

また、「行く」「来る」の継続形は、移動後の存在（状態の継続）のみを表す。「行っている最中」「来ている最中」（動作の継続）を表すには,「-ムˆチ（ドゥ）　ウー／-ムˆチュー／-ムˆチドゥー」という形式を使う必要がある。（〈推量非過去形〉を参照）

・タローガ　キッヅュードー。（太郎が来ているよ。）

そして、存在動詞にも継続形がある。存在動詞の継続形は、現在または恒常の状態や、気づき（発見・想起）などを表すことが可能であり、断定非過去形と置き換えることが可能である。

・カマンドゥ　コショースター　タクシーヌ　{アリュー／アー}。（あそこに故障したタクシーがある。）【現在の状態】

・ア！トゥミ　ウター　ムヌヌドゥ　ウマン　{アリュー／アー}。（あっ！探していたものがこんなところにあった。）【発見】

・ア、マンチ！タナヌ　ナカンドゥ　コースヌ　{アリュー／アー}。（あっ、そうだ！棚の中にお菓子があった。）【想起】

ただし、存在動詞の断定非過去形は未来の存在も表すことができる。この場合は、継続形とは置き換えられない。

・タローヤ　アッツァマイ　ウマンドゥ　{ウーパズ／×ウリューパズ}。（太郎は明日もここにいるだろう。）

また、中止形のあとに焦点助詞「ドゥ」がつき、さらに「ウー」が後続する場合がある。この場合は「ドゥ」と「ウー」が「ドゥー」という 1 つの音韻語になることが多い。

・タローヤ　ホンヌ　ユミドゥー。（太郎は本を読んでいる。）

なお、不規則動詞「降る」については、語幹「ff-」で作られた「ッフィ　ウー／ッフュー」という形式のみ存在し、語幹「fir-」で作られた「フリ　ウー／フリュー」という形式はない。

〈希望形〉

希望形は、基幹 1 と「ブス」（形容詞語幹）が複合した形、および基幹 3 に接辞「-バー／-ルバー」がつく形式がある。

基幹 1 と「ブス」が複合した複合形容詞は、自立型の形容詞（「2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴」を参照）と同じ活用をし、「実現可能なことをこれからしたい」という意味を表す。

・プカンカイ　イディ（ヅ）ブス。（外に出たい。）

・ミャークンカイ　イキッブスカー。（宮古に行きたい。）

ただし、基幹 1 が 1 モーラの場合は、2 モーラになる必要がある。

・マタ　ミャークンカイ　キッーブスカー。（また宮古に来たい。）

一方、「-（ル）バー」は、V_{III} の基幹 3 につく場合「-バー」になり、V_{I} の基幹 3 につく場合は「-ルバー」または「-バー」になり、「実現が難しいことが実現できたらどれほど良いだろう」という意味を表す。

ただし、「-（ル）バー」が使われる場合は、終助詞「イ」「ヤー」がつくことが多い。終助詞がつく場合、「-（ル）バーイ」「-（ル）バーヤー」にならず、「-（ル）バイ」「-（ル）バヤー」になる。

・ジンヌ　ヤマカサ　{アラバー／アラバイ／アラバヤー}。（お金がたくさんあればいいね。）

〈のだ形〉

久松方言では、共通語の「のだ」に相当する形式はない。

2. 形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴

久松方言の形容詞・形容名詞述語・名詞述語の活用の特徴は連続的であり、形容詞の一部は形容名詞と似たような活用パターンをなし、また、形容名詞の一部は名詞と似たような活用パターンをなしているため、本稿ではまとめて記述する。また、久松方言の形容詞・形容名詞述語については、陶（2020）を大きく参照している。

久松方言の形容詞は大きく非自立型と自立型の 2

種類に分けられる。（陶（2020, 2021, 2022）では、非自立形式／自立形式や、非自立形容詞／自立形容詞と呼ばれている）。非自立型の形容詞は基本的に 2 モーラ以下であり（cf. 陶 2021）、形容詞単独形（そのままの形式、例えば、「ンマ（美味しい）」）で述語になることができず、叙述接辞「-ムヌ」を付してコピュラの補語となる「叙述形」（例：「ンマムヌ」）や、動詞化接辞「-カヅ」を付す「動詞形」（例：「ンマカー」）になる必要がある（形容詞活用表「美味しい」および、動詞の活用表「形容詞の動詞化接辞」を参照）。そのほか、名詞が後続したり（例：「ンマ　ムツ（美味しい餅）」）、重複したり（例：「ンマーンマ」）することでコピュラの補語になることも可能である。一方、自立型の形容詞は基本的に 3 モーラ以上であり（cf. 陶 2021）、形容詞単独形で述語（コピュラの補語）になることが可能である。

また、形容詞には、接辞「-サ」で感嘆を表す自分自身の体による感覚を表す形容詞（「アツ（暑い）」「スプタヅ（汗だく）」など）、形容詞専用指小辞「-ッツァ」が後続することが可能な形容詞（「イミ（小さい）」「マル（短い）」「カギ（きれいだ）」「ヤラ（柔らかい）」「ヤラビ（子供っぽい）」など）、具格助詞「シ」が後続することが可能な形容詞（「オー（青い）」「ンー（似ている）」「ピャー／ペー（速い）」のように長音を持つ形容詞）などの種類もある。

名詞は、コピュラを後続させ、述語になることが可能である。

一方、形容名詞については、基本的に名詞と同じであるが、自立型の形容詞の特徴を併せ持つ「ガンズゥー」（健在だ、元気だ、丈夫だ）のようなものもあれば、名詞とのみ同じ特徴を持つ「ジョートゥ」（とても良い）のようなものもある。「ガンズゥー」の場合は、「ガンズゥー（ドゥ）　ヤター（丈夫だった）」「ガンズゥーヌ　ピットゥ（丈夫な人、元気な人）」のように、名詞と同じ活用パターンであるが、「ガンズゥーカター」「ガンズゥー　ピットゥ」のように、自立型の形容詞と同じ活用パターンも併せ持っている。一方、「ジョートゥ」の場合は、自立型の形容詞の活用パターンを持たない。

〈断定非過去形〉

非自立型の形容詞は形容詞単独形では、断定非過去形が作れないため、叙述形や動詞形などを使う必要がある。ただし、叙述形のあとのコピュラは断定非過去形では現れない。

また、動詞形は、名詞項に焦点助詞がつくことが多いことに対し、それ以外の形式は、名詞項に主題助詞がつくことが多い（Koloskova & Ohori 2008、下地 2018、林 2013、陶 2022）。

・ウヌ　リョーリヤ　{ンマ　リョーリ／ンマムヌ／ンマーンマ}。（その料理はおいしい。）

・ウヌ　リョーリヌドゥ　ンマカー。（その料理がおいしい。）

その他、「イミ（小さい）」「マル（短い）」「ヤラビ（子供っぽい）」「カギ（きれい）」「ヤラ（柔らかい）」など、「小ささ」「清潔さ」「気持ちよさ」を表す一部の形容詞のみに形容詞専用の指小辞「-ッツァ」が後続し、コピュラやアスペクト補助動詞「ur-」の補語になることが可能である。

・ウヌ　キーヤ　イミッツァ。（その木は小さかった。）【コピュラの補語】

・ウヌ　キーヤ　イミッツァドゥ　ウー。（その木は小さい。）【アスペクト補助動詞「ur-」の補語】

また、長音を持つ非自立型の形容詞は、具格助詞「シ」とアスペクト補助動詞「ur-」を後続させることが可能である。

・クマヌ　インマ　ウカース　オーシドゥ　ウーヤー。（ここの海はとても青いね。）（陶 2020: 89）

一方、自立型の形容詞は上記の形式以外に、単独でコピュラの補語になることが可能である。同様に、断定非過去形では、コピュラが現れない。

・ハナコー　キッムカギ。（花子は優しい。）

また、形容名詞と名詞はコピュラの補語として振る舞う。

・ウヌ　ツクイヤ　ガンズゥー。（その机は丈夫だ。）

・ハナコー　シンシー。（花子は先生だ。）

なお、非自立型の形容詞は形容詞単独形では叙述用法を持たないが、終助詞「ヤ（ね）」「ガ（疑問詞疑問）」「ナ（肯否疑問）」が後続することで述語となることが可能である（cf. 久松方言保存会 2020: 25、陶 2021）。

・ウヌ　インナ　イミヤー。（その犬は小さい

ね。）

〈断定過去形〉

断定過去形については、コピュラの補語を取る形式は、コピュラを断定過去形「ヤター／ヤヅター」にし、動詞化接辞「-カー／-カヅ」がつく形式は、過去形の「-カター／-カヅター」にすれば良い。また、コピュラの補語となる名詞に、焦点助詞「ドゥ」が後続する場合もある。

・ウヌ　リョーリヤ　{ンマ　リョーリ（ドゥ）　ヤター／ンマムヌ（ドゥ）　ヤター／ンマーンマ（ドゥ）　ヤター}。（その料理はおいしかった。）【非自立型の形容詞】

・ウヌ　リョーリヌドゥ　ンマカター。（その料理がおいしかった。）【非自立型の形容詞】

・ハナコー　{キッムカギ（ドゥ）　ヤター／キッムカギ　ピゥトゥ（ドゥ）　ヤター／キッムカギムヌ（ドゥ）　ヤター／キッムカギーキッムカギ（ドゥ）　ヤター}。（花子は優しかった。）【自立型の形容詞】

・ウヌ　ツクイヤ　ガンズゥー（ドゥ）　ヤター。（その机は丈夫だった。）【形容名詞】

・ウヌ　ツクイヌ　ガンズゥーカター。（その机が丈夫だった。）【形容名詞】

・ハナコー　シンシー（ドゥ）　ヤター。（花子は先生だった。）【名詞】

〈推量非過去形〉

推量非過去形は、動詞と同じように、接辞「-ムˆ」がつく形式と終助詞「パズ」がつく形式がある。

コピュラに「-ムˆ」がつく場合は、「ヤムˆ／ヤヅムˆ」になり、動詞化接辞に「-ムˆ」がつく場合は「-カムˆ／-カヅムˆ」になる。意味的には動詞と同じように、「推量」と「婉曲」の意味がある。

また、陶（2020: 138）では、久松方言の「-カムˆ」に警告の用法があると報告されている（Koloskova & Ohori（2008: 629）では、平良方言の「-カムˆ」にも警告の用法があると報告されている）。しかし、「熱い」にあたる「アツカー」も警告の意味で使われることがあり、話者によると「アツカムˆ」は「アツカー」より柔らかく聞こえるというため、この「-ムˆ」は警告の用法より、婉曲の用法と分析したほうが妥当であろう。

・アツカムˆ。（熱い。）

・ウヌ　ピットー　シンシー（ドゥ）　ヤムˆ。（その人は先生でしょう。）

また、「パズ」の場合はそのまま「断定非過去形」のあとにつく。

・ウヌ　ピットー　シンシーパズ。（その人は先生だろう。）

〈推量過去形〉

推量過去形は、動詞と同じように、「-タムˆ」を動詞化接辞の基幹 1 に後続させる形式と、終助詞「パズ」をコピュラの断定過去形に後続させる形式がある。

・アツカタムˆ。（熱かったです。）

・ウヌ　ピットー　シンシー（ドゥ）　{ヤタムˆ／ヤターパズ}。（その人は先生だったでしょう。）

〈感嘆形〉

すべての形容詞・形容名詞・名詞は単独形で感嘆を表すことが可能である。

・アツ！（熱い／暑い！）

・イヴ！（重い！）

そのほか、自分自身の体による感覚を表す形容詞は、接辞「-サ」がつくことによって感嘆形を作ることも可能である。

・アツサ！（暑い！）

・スプタヅサ！（汗だくになって気持ち悪い！）

〈連体非過去形〉

形容詞は形容詞単独形で名詞を修飾することが可能である。

・イミ　イン。（小さい犬。）

また、動詞化接辞「-カー／-カヅ」で名詞を修飾する場合は、全体集合の中の、ある部分集合に限定する意味合いが強い（陶 2022）。例えば、以下の例文では、赤いカード（1 枚あるいは全部）のみを選んで、ほかのカードを選ばないというニュアンスが強い。

・ウヌ　ナカカラ　アカカー　カードー　イラビ！（その中から赤いカード（のみ）を選びなさい。）

そのほか、形容詞単独形と動詞化接辞「-カー／-カヅ」がつく形式以外の形式（重複形、「-ッツァ」形、「シ」形）は、属格助詞「ヌ」で名詞を修飾することが可能である。

・イミーイミヌ　イン。（小さい犬。）
・イミッツァ（ガマ）ヌ　イン。（小さい犬。）
・オーシヌ　イムˇ。（青い海。）

形容名詞は名詞と同じように、属格「ヌ」で名詞を修飾する。

・ガンズゥーヌ　ツクイ。（丈夫な机。）
・シンシーヌ　ホン。（先生の本。）

また、「ガンズゥー」のような自立型の形容詞の特徴を併せ持つものは、形容詞と同様に、属格を経ずに名詞を修飾することが可能である。

・ガンズゥー　ツクイ。（丈夫な机。）

ただし、名詞述語の場合は、「先生である人」のような「コピュラ＋名詞」のような用法は、久松方言には存在しない。この場合、「シンシーバシ　ウー」などの形式（【継続形】を参照）など別の形式で表す。

・×シンシー　ヤヅ　ピットゥ。（意図：先生である人。）
・シンシーバシ　ウー　ピットゥ。（先生である人。直訳：先生をしている人。）

〈連体過去形〉

形容詞の連体過去形については、コピュラの過去形で名詞を修飾することがあまり使われず、主に「-カー／-カヅ」の過去形「-カター／カヅター」で名詞を修飾する。

・プカラスカター　ヤラビピッカズ。（楽しかった子どもの頃。）

一方、形容名詞と名詞は、コピュラの過去形で名詞を修飾することが可能である。

・シンシー（ドゥ）　ヤター　ピットゥ。（先生だった人。）

〈中止形 1〉

非自立型の形容詞の中止形 1 は、動詞化接辞の場合は「-カリ（ー）」になり、コピュラの場合は「バシ（ー）」になる。なお、この「バシ」の「バ」は、宮古語諸方言の記述においては、話題標識（コロスコワ 2007）や、非焦点形（林 2013）、非活格（セリック・林 2017）、第二対格（下地 2018）などとも呼ばれている。「シ」は動詞「ッス（する）」の中止形 1「ッシ」の接語形式である。ただし、本稿では、下地（2018: 78-79）にしたがって、「バシ（ー）」を動詞化接辞と分析する。

・{アカーアカバシ／アカムヌバシ}ドゥ　カギムヌヤー。（赤くてきれいだ。）

自立型の形容詞は、単独形にコピュラが後続することも可能であるが、中止形 1 は「単独形＋バシ（ー）」のような形式はない。

・ハナコー　{×キッムカギバシ（ー）／キッムカギーキッムカギバシ（ー）／キッムカギムヌバシ（ー）}　ゾー　ピットゥヤー。（花子は優しくていい人だね。）

形容名詞は基本的に単独形に「バシ（ー）」を後続させて中止形 1 を作る。

・ハナコー　シンシーバシドゥ　シャチョーマイ　シュー。（花子は先生であって社長でもある。直訳：花子は先生をして社長もしている。）

ただし、並列を表す場合、中止形 1 より、次の項目で説明する中止形 2 のほうが多用される。

〈中止形 2〉

中止形 2 は、動詞化接辞の場合は「-カリッティ」になり、コピュラの場合は「-バシッティ」になる。

・アカカリッティドゥ　カギムヌヤー。（赤くてきれいだ。）
・ハナコー　シンシーバシッティドゥ　シャチョーマイ　シュー。（花子は先生であって社長でもある。）

〈仮定形 1〉

仮定形 1 は、動詞化接辞の場合は「-カーチカ（ラ）ー／-カ（ヅ）チカ（ラ）ー」になり、コピュラの場合、「ヤーチカ（ラ）ー／ヤ（ヅ）チカ（ラ）ー」になる。

・スバ　ヤチカー　ヤスカーベヤー。（そばだったら安いだろう。）
・タローヤ　マナイカーチカー　ジョートースゥガドゥヤー。（太郎が優しかったらいいのになあ。）

〈仮定形 2〉

仮定形 2 は、動詞化接辞の場合は「-カリバ／-カラバ／-カーバ／-カヅバ」になり、コピュラの場合、「ヤリバ／ヤラバ／ヤ（ー）バ／ヤヅバ」になる。

・カヌ　ピットゥヌ　シンシー　{ヤリバ／ヤラバ／ヤ（ー）バ／ヤヅバ}　シートゥンカマイ　ヌズゥマレードゥスヤー。（あの人が先生だったら、（きっと）学生に好かれる（望ま

れる）んだね。）

〈理由形〉

形容詞･形容名詞･名詞は理由形が 1 つしかなく、動詞の理由形 1 に当たる。

コピュラの理由形は「ヤ（ー）バ／ヤヅバ」であり、動詞化接辞の理由形は「-カリバ」と「-カーバ／カヅバ」の両方がある。

・カヤ　シンシー　ヤバ　ケーゴ　ツカイ！（彼は先生だから、敬語を使いなさい。）

・キューヤ　{ピッグルカリバ／ピッグルカーバ}ンマッツゥ　マーシ。（今日は寒いので、火をつけなさい。）

〈逆接形〉

コピュラの逆接形は「ヤ（ー）スゥガ／ヤヅスゥガ」であり、動詞化接辞の逆接形は「カースゥガ／カヅスゥガ」である。ただし、コピュラの逆接形の場合は、コピュラ「ヤ（ー）／ヤヅ」を省略することが可能である。

・ウヌ　キーヤ　{タカムヌ　ヤ（ー）スゥガドゥ／タカムヌ　ヤヅスゥガドゥ／タカムヌスゥガドゥ}　カヌ　キーヤ　ビッダムヌ。（この木は高いけど、あの木は低い。）

・ジンヌ　ヤマカサ　アチカー　ゾーカースゥガヤー。（お金がたくさんあったらいいけどね。）

〈譲歩形〉

コピュラの譲歩形に「ヤリバンマイ／ヤラバンマイ」などがあるほか、「バシッティマイ」という形式もある。一方、動詞化接辞の譲歩形に「-カリバンマイ／-カラバンマイ」などがあるほか、「-カリッティマイ／-カーッティマイ」という形式もある。

・シンシー　ヤラバンマイ　ウヌ　モンダイユバ　トゥカレーンパズ。（先生であってもその問題は解けないだろう。）

〈否定形〉

形容詞の否定非過去形は「単独形+ッファ」に、「アヅ／アー（ある）」の否定形「ニャーン」がつくことによって形成される。また、共通語の「くは」に相当する「ッファ」の代わりに、「く」に相当する「フ」が使われることもある。

また、「単独形+名詞」に主題助詞「ヤ」（省略可）とコピュラの否定「アラン」が後続することによって否定形が作られることも可能である。ただし、自立型形容詞の単独形は、肯定形の場合はコピュラの補語になることが可能であるが、否定形の場合は、そのまま後ろにコピュラの否定形がつくことができない。

・タローヤ　{キッムカギッファ　ニャーン／キッムカギ　ピットー　アラン／×キッムカゲーアラン}。（太郎は優しくない。）

形容名詞・名詞の否定非過去形については、そのままコピュラの否定非過去形が後続することによって形成される。

・ウヌ　ツクイヤ　ガンズゥーヤ　アラン。（その机は丈夫な机ではない。）

・タローヤ　シンシーヤ　アラン。（太郎は先生ではない。）

一方、否定過去形は、「ニャーン」を「ニャーダム゜」に、「アラン」を「アラダム゜」にすることによって作られる。

・タローヤ　{キッムカギッファ　ニャーダム゜／キッムカギ　ピットー　アラダム゜}。（太郎は優しくなかった。）

ほかに、「否定仮定形」「否定理由形」「否定譲歩形」などの派生形式もある。

否定仮定形は「ニャーン」または「アラン」を仮定形「ニャーダカ（ラ）ー」「アラダカ（ラ）ー」にすることによって形成される。

・ピッグルフ　ニャーダカー　プカンカイ　イディディ。（寒くなければ外に出よう。）

・シンシー　アラダカー　ウヌ　モンダイユバッサレーンパズ。（先生でなければその問題はわからないだろう。）

否定理由形は「ニャーン」を「ニャーン　ヤバ／ニャーンニャバ／ニャーンニバ」に、「アラン」を「アラン　ヤバ／アランニャバ／アランニバ」にすることによって形成される。ただし、動詞と同様に、「否定形＋ヤバ」の形式ではあまり使われず、否定形の「-ン」の音素 /n/ が「ヤバ」の前にコピーされる「ニャバ」の形式、または「ニバ」の形式がよく使われる。

・ジンムチャー　アランニャバ　ウヌ　クルマユバ　カーレーンパズ。（お金持ちではないので、その車は買えないだろう。）

否定譲歩形は、動詞化接辞「-カヅ／-カー」の場合は「-カラダナ（シ）マイ／-カラダンシマイ／-カラダム˚シマイ／カラニャーンマイ」になり、コピュラの場合は「アラダナ（シ）マイ／アラダンシマイ／アラダム˚シマイ／アラニャーンマイ」になる。

・シンシー　アラダナシマイ　ウヌ　モンダイユバ　シードゥーパズ。（先生でなくても、その問題は知っているだろう。）

〈なる形〉

形容詞単独形は、「-フ／-カリ」がついて、さらに「ナヅ（なる）」が後続することが可能である。「-フ」を使う場合は、結果に焦点が置かれ、「-カリ」を使う場合は、進行中の動作・変化に焦点が置かれる。

「ナヅ（なる）」が後続する場合は、変化の結果を表すことが多いため、ほとんどの場合「-フ」が使われるが、「ナリュー（なっている）」のように、変化している最中を表す場合は、「-カリ」が使われる。

・ティンヌ　{アカフ／×アカカリ}　ナヅター。（空が赤くなった。）【結果】

・ティンヌ　{×アカフ／アカカリ}　ナリ　キッヅィ　ウー。（空が（だんだん）赤くなってきている。）【進行中の変化】

そのほかに、重複形は、与格助詞「ン」、方向格助詞「ンカイ」、具格助詞「シ」が後続し、「なる」を修飾することも可能であるが、助詞がつかない形式が最も多用される。

・{アカーアカ／アカーアカン／アカーアカンカイ／アカーアカシ}（ドゥ）　ナヅター。（赤くなった。）

一方、形容名詞・名詞の場合は、対格助詞「ン」、方向格助詞「ンカイ」、「バシ」のいずれかを取って、「なる」を後続させたり一般動詞を修飾する。

・{ジョートゥン／ジョートゥンカイ／ジョートゥバシ}（ドゥ）　ナリ　ウー。（良くなっている。）（陶 2020: 114、例文を一部改変して引用）

ただし、形容詞の特徴を併せ持った形容名詞は、対格助詞「ン」または方向格助詞「ンカイ」で「なる形」を作ることが不可能であるが、形容詞のように作るか、「バシ」を後続させて作ることが可能である。

・{ガンズゥーガンズゥー／ガンズゥーフ／カンズゥカリ／ガンズゥバシ／×ガンズゥーン／×ガンズゥーンカイ}（ドゥ）　ナリ　ウー。（丈夫になっている。）

〈副詞形〉

「なる形」と同様に、形容詞単独形は、「-フ／-カリ」がついて、さらに動詞が後続することが可能である。また、「なる形」と同様に、「-フ」は結果に焦点が置かれ、「-カリ」は、進行中の動作・変化に焦点が置かれる。以下の例文で、「アカフ」が使われる場合、完全に赤くなっているニュアンスがあり、「アカカリ」が使われる場合、海が赤くなりつつあるニュアンスがある（陶 2020: 141-142）。

・インマ　ユーヒンドゥ　{アカフ／アカカリ}　スゥマリ　ウー。（海は夕日に赤く染まっている。）（陶 2020: 141、例文を一部改変して引用）。

そのほか、重複形は、与格助詞「ン」、方向格助詞「ンカイ」、具格助詞「シ」が後続し、動詞を修飾することも可能であるが、「なる形」と同様に、助詞がつかない形式が最も多用される。

・{ヌカーヌカ／ヌカーヌカン／ヌカーヌカンカイ／ヌカーヌカシ}（ドゥ）　パナシ。（ゆっくり話せ。）（陶 2020: 80）

一方、形容名詞の場合は、対格助詞「ン」、方向格助詞「ンカイ」、「バシ」のいずれかを取って、動詞を修飾することが可能である。

・{ジョートゥン／ジョートゥンカイ／ジョートゥバシ}（ドゥ）　パナシ　ウー。（とても良く話している。）

また、「なる形」と同様に、形容詞の特徴を併せ持った形容名詞は、対格助詞「ン」または方向格助詞「ンカイ」で一般動詞を修飾することが不可能である

・ウヌ　ツクイヤ　{ガンズゥーガンズゥー／ガンズゥーフ／カンズゥカリ／ガンズゥバシ／×ガンズゥーン／×ガンズゥーンカイ}（ドゥ）　ツファレー　ウー。（その机は丈夫に作られている。）（陶 2020: 114、例文を一部改変して引用）

〈丁寧形〉

動詞化接辞には「丁寧形」が存在せず、コピュラに「丁寧形」が存在する。コピュラの丁寧形は尊敬

接辞の「-（サ）マ」がつき、「ヤラマヅ」になるが、尊敬の意味ではなく、丁寧な表現になる。

・アンシ　ヤラマヅターン？（そうでしたか。）

また、動詞の場合と同様に、「推量非過去形」「推量過去形」で丁寧さを表すことが可能である。

〈使役形〉

動詞化接辞には使役形「-カラス」がある。

・ホンヌ　ニーユ　タカカラシ。（本の値段を高くしなさい。）

〈継続形〉

形容詞は、重複形、動詞化接辞の中止形 1「-カリ」および自立型の形容詞の単独形に、アスペクト補助動詞「ur-」がつくことによって継続形を作ることが可能である。「-カリ　ウー」は三人称の感情・感覚を表す用法があり、それ以外の継続形は「コピュラ」の述語焦点形として使われるという報告があるが（陶 2020: 139）、その機能については更なる検討が必要であると思われる。

・タローヤ　パヴヴゥドゥ　ウトゥルスカリウー。（太郎は蛇を怖がっている。）（陶 2020: 138）

一方、形容名詞・名詞の継続形は「バシ　ウー」のようになる。

・カイガ　ミャークン　ジューネン　ウターバドゥ、ドーリシ　ミャークフッツァ　ジョーズバシ　ウー。（彼が宮古に 10 年いたので、どうりで宮古語は上手だ。）

〈希望形〉

形容詞・形容名詞・名詞は、「ブス」と複合する形を持たず、「-バ」が後続する形のみを持つ。この場合、動詞化接辞は「-カラバー」「-カラバイ」「-カラバヤー」になり、コピュラは「-ヤラバー」「-ヤラバイ」「-ヤラバヤー」になる。

・バヤ　シンシー　ヤラバヤー。（僕は先生だったらな。）

〈のだ形〉

久松方言では、共通語の「のだ」に相当する形式はない。

参考文献

上村幸雄（1992）「琉球列島の言語　総説」亀井孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第 4 巻　世界言語編　下-2』771-814. 三省堂.

コロスコワ，ユリア（2007）「琉球語宮古方言の直接目的語の標識と他動性」角田三枝・佐々木冠・塩谷亨編『他動性の通言語学的研究』283−294. くろしお出版.

下地理則（2018）『シリーズ記述文法 1 南琉球宮古語伊良部島方言』. くろしお出版.

セリック、ケナン・林由華 (2017)「宮古諸方言の「第二対格」は「対格」か？―多良間方言を中心に―」日本語学会 2017 年度秋季大会予稿集, 69−76.

陶天龍（2020）「南琉球宮古語久松方言の形容詞―その記述的研究―」修士論文. 東京外国語大学大学院総合国際学研究科.

陶天龍（2021）「宮古語久松方言の非自立の形容詞相当形式が語と分析できる環境」日本語学会 2021 年秋季大会発表予稿集, 1-6.

陶天龍（2022）「宮古語久松方言における形容詞の動詞化接辞 -kar―焦点助詞との共起と総記用法に注目して―」『言語・地域文化研究』28, 197-213.

陶天龍（2023）「宮古語久松方言の活用パターンによる動詞分類―不規則動詞を中心に―」『日本語の研究』19(2): 181-197. 日本語学会.

中本謙（2014）「沖縄県宮古島市平良下里方言」方言文法研究会編『全国方言文法辞典資料集(2) 活用体系』（科学研究費補助金「日本語諸方言の文法を総合的に記述する『全国方言文法辞典』の作成とウェブ版の構築」（課題番号 21320089、研究代表者 日高水穂）研究成果報告書）.

林由華（2013）『南琉球宮古語池間方言の文法』博士論文. 京都大学大学院文学研究科.

久松方言保存会（2020）『久松方言集』（株）近代美術.

Koloskova, Yulia and Toshio Ohori (2008) Pragmatic factors in the development of a switch-adjective language: A case study of the Miyako-Hirara dialect of Ryukyuan. *Studies in language* 32(3): 610-636.

（陶天龍）